

## 【人文学】

## 研究論文

## 中華人民共和国の道德教科書にみる戦争と平和

—教科書を通じた統合—

上藺恒太郎<sup>\*1</sup>・蒲池 文恵<sup>\*2</sup>

## War and Peace Described in Textbooks for Moral Education

## in The People's Republic of China

## —Integration through Moral Textbooks—

KAMIZONO Kohtaro and KAMACHI Fumie

## Summary

Moral education textbooks of “Morality and Life” and “Morality and Society” in the PRC combine history, geography and politics with morality in a world view. Morality is not integrated as a separate world view within personality, as it is in Japan, but it is overwhelmingly organized outside of children themselves. We analyzed 10 kinds of moral education textbooks used in the PRC, published from 2002 to 2013. In Chinese moral textbooks, the history of the Opium War and the defeat of the Japanese military are organized in order to legitimize the Chinese Communist party's integration and operation within China. Peace in these textbooks is not only viewed as the opposite of War, but the concept richly includes a view of the Chinese people's liberation, global unity of economy with other countries, development of science and technology in the PRC, along with world politics from a Chinese perspective.

キーワード：品德と生活、品德と社会、課程標準、アイデンティティ、和解

Key words: Morality and life, Morality and Society, Curriculum Standard of China, Identity, reconciliation

## はじめに

教科書は、授業素材であるとともに、編纂の考え方を伝える。授業の遂行は、授業素材内容を伝えるだけでなく、教科書において示された素材の扱い方を示すことになる。

道德教科書を編纂する妥当性が 2015 年時点の日本においていまだ論議になるが、学習指導要領に示されたように価値を並べて教科書編纂すると、道德上の価値は並べて教えられると教員と子どもに示すことになる。日本の道德教育の控えめなやり方は、道德教科書と名称を変

---

<sup>\*1</sup> 共通教育部門 教授

<sup>\*2</sup> 中華人民共和国煙台南山学院人文学院外国語学科 講師  
2015 年 10 月 21 日受付  
2015 年 12 月 11 日受理

えて編纂しても、1. 価値を並べるに止め、価値の統合を子ども個人に任せ、2. 道徳教科の教員を置かず、3. 評価が入学や就職に響かない扱いは、世界観とアイデンティティへの価値統合を子どもの自由に任せていると示す。言いかえると、心の自由と多様性を尊重する教科書編成と授業者の態度とを示している。道徳教育は、愛国心の要素を強調しながらも、個人の形成において自由を許容する政治体制の正当性を示すことになる。この点は、中華人民共和国（以下中国と記す）の道徳教科書との対比によって明らかになるだろう。

中国の道徳教科書は、教科書において歴史認識、地理認識、政治、道徳がひとつの世界観に統合されている。中国の道徳教科書である「品德と生活」「品德と社会」は、歴史、地理、政治と道徳を教科書において統合して示し、道徳担当の教員が教え、進学、就職に影響する、強力な道徳教育を前提とした教科書である。統合された力は、子どもの知識と思考とアイデンティティを形成する強さをもっている。

歴史認識、地理認識、世界観を道徳と統合して編纂するのは、教科書を編成した意図が子どもに受け入れられることを通じて、意図が正当化され、子どもの道徳教科書受容（acceptance）が中国共産党の正当性（legitimacy）確立になると期待されるからからである。

道徳教科書とそれに基づく授業の受容は、教科書を送りだした政治体制の正当性の保証を意味する。すなわち、一つの授業として考えると、授業の目標と教員と授業素材と子どもの4要素によって成立するように見える事態は、いかなる教員と教科書を配当するかを通じて、政治体制の正当性を受け入れさせる営みだと理解できる。

政治体制が異なるとき、体制の間を繋ぐ道は、異なりを知る努力と相互の助け合いに求められるのではないか。戦後70年となる2015年に日本と中国は、実は、政治のレベルでも近接した考えを述べ合っているように見える。

戦後70年となる2015年の日本は、今上天皇である明仁天皇の次の感想で幕を開けた。「本年は終戦から70年という節目の年に当たります。多くの人々が亡くなった戦争でした。各戦場で亡くなった人々、広島、長崎の原爆、東京を始めとする各都市の爆撃などにより亡くなった人々の数は誠に多いものでした。この機会に、満州事変に始まるこの戦争の歴史を十分に学び、今後の日本の

あり方を考えていくことが、今、極めて大切なことだと思っています。」<sup>1</sup>

同日、安倍晋三首相が「日本は、先の大戦の深い反省のもとに、戦後、自由で民主的な国家として、ひたすら平和国家としての道を歩み、世界の平和と繁栄に貢献して」きたと述べ<sup>2</sup>、これに対して、中国外交部の華春瑩報道官は、「日本は過去に誠実に向き合って初めて、真に未来を得ることができる」とコメントした<sup>3</sup>。

これに先立ち中国は、2014年2月27日、第12期全国人民代表大会常務委員会第7回会議で、9月3日を抗日戦争勝利記念日に、12月13日を南京大虐殺犠牲者国家追悼日にすることを決定し<sup>4</sup>、12月13日には、南京の侵華日軍南京大虐殺遭難同胞記念館で、初めての国家追悼式典を行った。式典には中国共産党中央委員会総書記、国家主席、中央軍事委員会主席である習近平が出席して以下のスピーチを行った。「中国侵略日本軍に殺戮されたすべての同胞を追悼し、中国国民の抗日戦争の勝利に命がけで貢献した革命の烈士たちと民族の英雄たちを追悼し、中国国民の平和発展の道を歩もうとする揺らぐことのない崇高な願いを表明し、中国国民の歴史を胸に刻み、過去を忘れず、平和を大切に、未来を切り開くという揺るぎない立場を宣言する。歴史は時代の変遷によって改変されるものではなく、…南京大虐殺という悲惨な出来事には確実な証拠が山のようにあり、改ざんすることはできない。（中略）われわれが南京大虐殺の犠牲者のために国家追悼式を行うことは、善良なすべての人々に平和を願い、平和を守る気持ちをもってほしいからであり、過去の恨みを引き延ばすためではない。中日両国国民は子々孫々に至るまで友好関係を保ち、歴史を鏡とし、未来志向で、人類の平和のためにともに貢献していかななくてはならない。」<sup>5</sup>これは、中国の戦争と平和に対する認識を、公的に世界に向けて表明したものといえよう。

日本の安倍首相の「先の大戦の深い反省」という言葉に対し、中国は「日本は過去に誠実に向き合って」いないと言う。両国とも平和への貢献を求めているながら、両者の間にこのような齟齬が生じるのはなぜであろうか。齟齬の原因は歴史認識の違いだといわれる。歴史分野という一つの領域の事実認識の相違ならば、詰めればいい、違いは両論併記して手を取りあえばいい。共通の歴史記

述の土台を求める動きは、共同の歴史教科書記述への努力として、ドイツがポーランドとフランスの間でゲオルク・エッカート教科書研究所を介しておこなった努力<sup>6</sup>を見習いながら、いくつも為されている<sup>7</sup>。こうした努力の上に、ドイツと近隣諸国はヨーロッパ共同体を結成していたのだから。

しかし、日本と中国の場合、どうも事態は世界観や政治そして感情に及ぶ齟齬にまで到っているように見える。この広く深い齟齬は、歴史上の事実認識だけでは説明できない。齟齬の背景には、人格形成に関わる道徳分野の違いがあるとの主張が本論である。日本において道徳が教育の要と語られ<sup>8</sup>、中国において後述するように道徳教育においてアイデンティティ形成が図られるとき、両者の齟齬の根は、歴史認識を超えて一人ひとりの意識の深さに届いていることになる。意識に届いているものは、一人ひとりの意識によって変えることができる。

本論は、中国の道徳教科書において戦争と平和がどのように扱われているかを示すことによって、齟齬の背景を明らかにし、日本と中国が手を取りあい、共に平和な未来を築いていく可能性について考えたい。

## I 中国の道徳教育と教科書

中国では、2001年に国家教育部が「基礎教育課程改革綱要（試行）」<sup>9</sup>を公布し、基礎教育課程改革<sup>10</sup>を実施し、日本の学習指導要領にあたる「全日制義務教育品德と生活課程標準（実験稿）」<sup>11</sup>「全日制義務教育品德と社会課程標準（実験稿）」<sup>12</sup>（以下、「課程標準」）を発表した。これに基づいて教科書が作成された。「義務教育課程標準実験教科書 品德と生活」（以下、「品德と生活」）と「義務教育課程標準実験教科書 品德と社会」（以下、「品德と社会」）である。

「課程標準」に示された図<sup>13</sup>を参照の上、課程の関係を図にすると図I-1のようになる。

中国の道徳教科書の歴史をたどると、2001年の基礎教育課程改革により、小学低学年（1

～2年）で「思想品德」と「自然」が合科され「品德と生活」になり、中高学年（6・3制：3～6年）（5・4制：3～5年）で「思想品德」と「社会」が合科され「品德と社会」になった。そして「品德と社会」は、中学段階（6・3制：7～9年）（5・4制：6～9年）で、再び「思想品德」と「歴史」・「地理」（或は「歴史」・「地理」を合わせた「歴史と社会」）に分かれる。2001年の改革で、中学の「思想政治」は「思想品德」に改められた。なお、小学段階において二つの教科が合科された理由について、趙亜夫は、教科の内容の重複による不必要な学習を減らし、総合課程の効果を発揮し、授業効果を高め、小学生の道徳性と良好な行為習慣を養い、社会性の発展を促し、中国共産党中央委員会と国務院が打ち出した学校德育教育強化の方針を貫徹するためとしている<sup>14</sup>。

本論では、歴史・地理・政治・道徳が一体として記述されている教科書「品德と生活」ならびに「品德と社会」にみる戦争と平和について分析する。2014年5月に国家教育部が発表した「2014年義務教育教学用书籍目録」<sup>15</sup>に掲載されている6・3制教科書は15種類、5・4制教科書は1種類である。本論が分析の対象としたのは、全国中小学教材審定委員会の審査を経て、上記目録に掲載され、使用されている6・3制教科書7種類、人民教育出版社（以下、人教版）、北京師範大学出版社（以下、北師版）、教育科学出版社（以下、教科版）、江蘇教育出版社（以下、江教版）、広東教育出版社（以下、広教版）、遼海出版社（以下、遼海版）、山東美術出

＜関連する課程の関係図＞

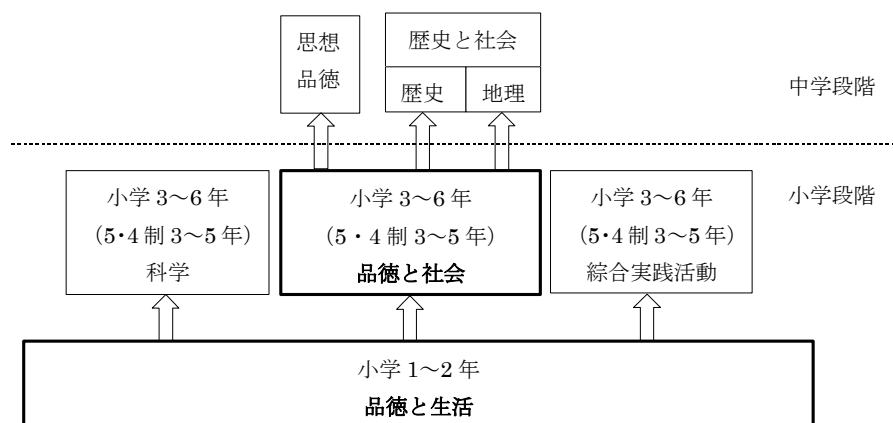


図 I-1

版社版（以下、山美版）と5・4制教科書1種類、山東教育出版社版（以下、山教版）、「上海市小学品德と社会課程標準（試行稿）」<sup>16</sup>に基づいて編纂され、上海市中小学教材審査委員会の審査を経て使用されている<sup>17</sup> 上海科技教育出版社版（以下、上海：科技版）及び北京市が独自に編纂し<sup>18</sup>、使用している<sup>19</sup> 首都師範大学出版社版（以下、北京：首師版）の合計10種類である。上海市は、5・4制を実施し<sup>20</sup>、中国全土の課程標準とは別に独自の課程標準を作成している。尚、本論における教科書や課程標準等の日本語訳はすべて筆者による。

これまでに、中国の道徳教育や教科書に関しては、沈曉敏（2005）<sup>21</sup>、倪冬岩（2007）<sup>22</sup>、許芳（2007）<sup>23</sup>、蔡秋英（2007）<sup>24</sup>、莫宇緋（2009）<sup>25</sup>、賽漢花（2011）<sup>26</sup>、山田美香（2012）<sup>27</sup>、武小燕（2013）<sup>28</sup>などの先行研究があるが、戦争と平和をテーマに扱った研究は、見当たらない。日中の認識の違いを、両国の道徳教育の違いに求める認識がなかったからであろう。また10種類の量を集めての分析も見受けない。入手困難の故だろう。

日本の道徳教育の控えめ<sup>29</sup>さ、すなわち価値項目を並べて教える（values education）教科書にするが、専任教員を欠き、評価に及び腰なやり方に対して、中国の小学校の道徳教育は、地理・歴史・政治と結び付けて行われる。基本的に教科専任制をとり、子どもたちの徳性と知性を統一的に高めるために毎週2-3時間（1-2年：2時間、3-6年：3時間）の授業を行う<sup>30</sup>。さらに、学習の質と量、水準を判断し、学習成果や問題点などを明らかにするため、1.学習態度、2.学習能力と方法（学習中の観察、探究、思考、表現能力や資料の収集、整理、分析能力、人と協力して任務を遂行する能力など）3.学習結果（学習任務を完了した質と量、及び進歩の度合い）を評価する<sup>31</sup>。したがって教科書は重厚であり、日本の道徳資料（教科書）とは趣が異なる。

また、中国には“大徳育”と“小徳育”という考え方がある<sup>32</sup>。“大徳育”は、家庭や学校、社会の各方面で徳育を有機的に統合させて、愛国主義教育<sup>33</sup>、思想道德教育、行為規範教育などを強化し、子どもたちの実践能力と創造能力を育成しようとするもので、学校教育において、政治教育、思想教育、道徳教育、法律教育、国情教育、心理健康教育をはじめとし、環境教育、薬物教育、生命教育などを広範に含む徳育概念である。“大徳育”は、小中学

校においては、各種の儀礼行事<sup>34</sup>や中国共産党の下部組織である中国少年先鋒隊<sup>35</sup>の儀式や活動、及び全教科の授業の中で、網羅的に行われている。それに対する“小徳育”は、一般に「教科徳育」と言われ、小学校では「品德と生活」・「品德と社会」、中学校では「思想品德」の教科書を使用して行われる道徳教育である。

## II 中国の道徳教科書における戦争と平和

### II-1「品德と生活」における戦争と平和に関する記述

「品德と生活」（1-2年）は「課程標準」で、課程の目標として「親を愛し年長者を敬い、集団を愛し、故郷を愛し、祖国を愛する」「祖国についての初歩の知識を理解する」<sup>36</sup>ことを挙げ、第三部分「内容標準」に「国旗や国章を敬い、国歌を歌うことができ、人民の英雄を尊敬し、自分が中国人であることに誇りを感じる」<sup>37</sup>と謳っている。そのやり方は、「活動型の総合課程である」<sup>38</sup>とし、座学を超えようとしており、各教科書とも、低学年を意識してか、写真や絵を多用している。

各教科書の戦争と平和に関する記述内容は、以下の7点に要約できる。

- 1) 新中国（中華人民共和国）成立時の開国大典<sup>39</sup>の様子を絵や写真から知り、国慶節（建国記念日）を人々や国外の華人とともに祝う。
- 2) 国旗や国章、国歌について知り、国旗掲揚や国歌斉唱時に取るべき姿勢や態度を学ぶ<sup>40</sup>。
- 3) 新中国の建国のために犠牲になった人民解放軍戦士や抗日児童団などの小さな英雄について知り、記念館（愛国主義教育模範基地、すなわち南京の侵華日軍南京大虐殺遭難同胞記念館や北京の中国人民抗日戦争記念館、瀋陽の「九一八」事変博物館など）を訪問したり映画を見たりする。
- 4) 祖国の繁栄富強のために貢献した指導者や英雄、模範<sup>41</sup>について知る。
- 5) 両親や祖父母、近所の年長者から建国の歴史や戦争について話を聞き、それをクラスで共有する。
- 6) 六一（国際児童デー）の活動を通して、世界に目を向け、戦争や貧困の中にある子供たちに関心を持つ。
- 7) 中国共産党の下部組織にあたる少年先鋒隊とその隊員の印である紅領巾<sup>42</sup>について知り、隊員としてのあるべき姿を学ぶ。

中国の道徳教科書には、祖国中国のために活躍し犠牲になった英雄、とくに子どもの英雄についての記述が多い。子どもが感情移入しやすいようにとの配慮であろう。各教科書で取り上げる主な英雄をあげると、以下のようになる。＜＞は教科書の見出しである。

人教版 2 年下 pp.38-39＜紅旗一角の物語＞ 董存瑞・雷鋒・叢飛。

山教版 2 年下 pp.55-56＜紅旗一角の物語＞ 董存瑞・雷鋒・龍梅と玉栄。

北師版 1 年上 pp.24-25＜人民英雄に学ぶ＞董存瑞・百万の勇士が長江を渡る（群像）・紅岩英雄の子女（群像）・南京雨花台（群像）。

教科版 2 年下 pp.62-65＜人民の英雄に敬礼＞張六子・小兵張嘎・王二小・潘冬子（筆者注：抗日の小さな英雄たち）、雷鋒・王進喜・孔繁森・鄧稼先・袁隆平。

江教版 2 年上 pp.10-11＜過去物語＞抗日小英雄張六子・百万の強力な軍隊が長江を越える（群像）・《閃閃の紅星》《小兵張嘎》《鶏毛信》（筆者注：抗日の小さな英雄を描いた映画）。pp.12-15＜紅領巾の誕生日＞烈士の遺志を継承する—南京雨花台（群像）。

広教版 2 年上 p.30＜私は中国人＞虎門硝煙—アヘン戦争・八一南昌蜂起・勝利し長江を渡り、全中国を開放する—解放戦争（群像レリーフ）。

山美版 2 年上 p.29＜星とトーチ 少年先鋒隊の栄光の歴史＞共産主義児童団・抗日児童団。

上海：科技版 2 年第 1 学期 pp.8-9＜新中国のために＞毛沢東・周恩来・劉小奇・朱徳・鄧小平—新中国を創建した中国の指導者たち、王二小・《抗日小英雄》《劉胡蘭》《小英雄雨来》《芦蕩小英雄》（筆者注：抗日の小さな英雄を描いた本）。

北京：首師版 2 年上 p.18＜国旗掲揚式の旗手になる＞張朋（筆者注：旗手になることを目指して白血病と闘った小学生）。

習近平国家主席は、六一（国際児童デー）直前に小学校の座談会で行った談話「早期から社会主義の中核的価値観を育成し実践」<sup>43</sup>（2014 年 5 月 30 日）で、「少年

児童は祖国の未来であり、中華民族の希望だ」とし、「いかなる思想や観念も、社会全体で確立し、長期にわたって役割を果たしていくには、少年児童から始めなければならない」と述べる。「中国の歴史には、少年英雄の物語がたくさんあり、中国共産党が人民を指導して行った革命、国家建設、改革事業においても数多くの少年英雄が現れた」として、映画の中の少年英雄の物語《小兵張嘎》《鶏毛信》など<sup>44</sup>を例示し、英雄、先進的人物を手本として学び、その中から良好な思想や品格への追求を養成することの大切さを語る。

なお、教科書で紹介する人物・映画・本・歌曲・記念館や博物館（展示されている群像や群像レリーフの写真を含む）は愛国主義教育に必要なものとして、中共中央宣伝部などが推薦しているものである<sup>45</sup>。

以下に、人教版「品德と生活」の戦争と平和に関する主な該当ページを示す。

人教版 1 年上 pp.22-23 図Ⅱ-1-1＜5、私たちの国慶節＞、pp.26-27 図Ⅱ-1-2＜6、母なる国は私の心の中にある—祖国を知る＞、pp.28-29 図Ⅱ-1-3＜国旗と国章を探す＞。

人教版 2 年下 pp.36-37 図Ⅱ-1-4＜8、鮮やかな赤いスカーフ—私たちはみんな少年先鋒隊員＞、pp.38-39 図Ⅱ-1-5＜紅旗一角の物語＞、pp.40-41 図Ⅱ-1-6＜9、赤いスカーフが胸の前で翻る—多彩な少年先鋒隊活動＞、pp.44-45 図Ⅱ-1-7＜10、愉快な“六一（国際児童デー）”—私たちの祝日＞、pp.46-48 図Ⅱ-1-8＜私たちは関心を持つ＞。



図Ⅱ-1-1 ＜5、私たちの国慶節＞





図 II-1-3 &lt;国旗と国章を探す&gt;

「品德と生活」は、子どもに、10月1日の国慶節の学習活動を通して、新中国成立までの戦争の歴史に触れ、その戦争で活躍し犠牲となった烈士や抗日児童団などの小さな英雄たちを偲び、少年先鋒隊入隊儀式や6月1日の国際児童デーの学習活動を通して、中国共産党の指導者たちを尊び、現在の平和で豊かな生活に感謝し、世界中には戦争や貧困で苦しんでいる子どもたちがいる現実を目に向け、社会主義国家である祖国を心から愛し、中国の子ども（少年先鋒隊員）としての自覚と責任を芽生えさせる内容となっている。小学低学年から道徳教育に、国家へと子どもの意識を統合する機能をもたせている。



図 II-1-4 &lt;8、鮮やかな赤いスカーフ

—私たちはみんな少年先鋒隊員>

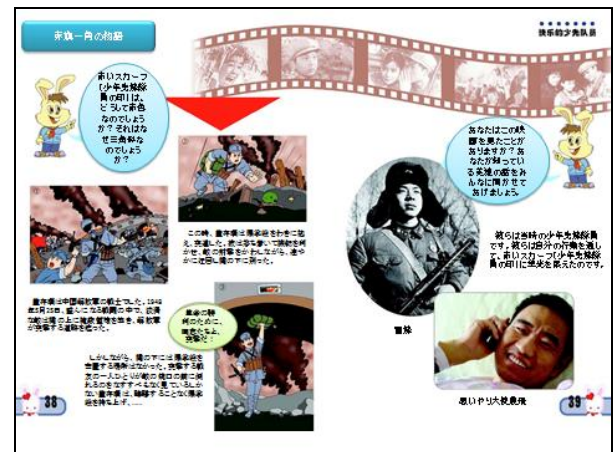


図 II-1-5 &lt;紅旗一角の物語&gt;



図 II-1-2 &lt;6、母なる国は私の心の中にある

—祖国を知る>

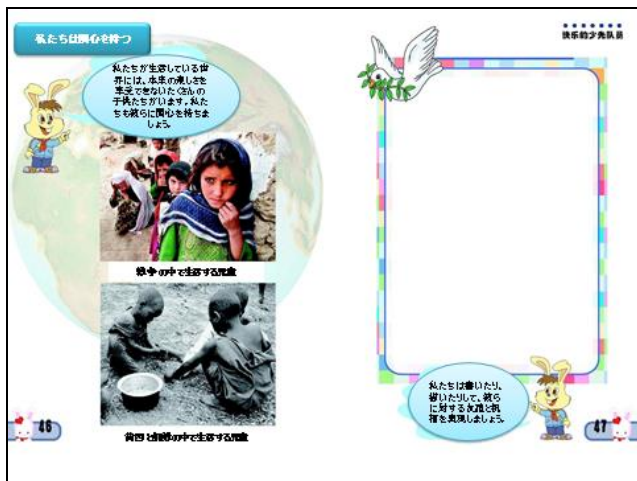


図 II-1-6 &lt;9、赤いスカーフが胸の前で翻る

—多彩な少年先鋒隊活動>



図Ⅱ-1-7 < 10、愉快な“六一”(国際児童デー) >  
—私たちの祝日>



図Ⅱ-1-8 < 私たちは関心を持つ >

## Ⅱ-2 「品德と社会」における戦争と平和に関する記述

「品德と社会」（6・3 制：3～6 年）（5・4 制：3～5 年）は、「課程標準」において「学生の良好な品德形成と社会性発展を促進する総合課程である」とし、「児童の社会生活を主軸にし、品德・行為規範・法制教育、愛国主義・集団主義・社会主義教育、国情・歴史・文化教育、地理・環境教育などを有機的に結び付け…基本的道徳観や価値観、初歩的な道徳判断力を形成し…」<sup>46</sup>と示す。すなわち、愛国主義・社会主義と歴史・地理認識と道徳観や価値観を結びつけ、「社会主義に適合した公民」<sup>47</sup>を育成する場である。

「課程標準」の第三部分で「内容標準」を示し、「私は成長している」「私と家庭」「私と学校」「私の故郷

（コミュニティー）」「私は中国人」「世界に近づく」と子どもの道徳意識を、自分から家庭、学校、住んでいる土地から中国へ、そして世界へと地理認識を拡大させる形で記述する。戦争と平和に関しては、「私は中国人」と「世界に近づく」に記述する。

以下は課程標準「私は中国人」の記述である。（数字は「内容標準」に記述されたものである。）道徳教育に、地理、歴史、政治が統合された姿を見ることができる。

- 1、我が国の地理的位置や領土の面積、海陸の領域、行政区画を知り、台湾は我が国の分割できない一部分であり、祖国の領土は神聖で不可侵であることを知る。
- 2、我が国の自然概況を理解し、我が国は地域が果てなく広く、多くの名山や大きな川、遺跡がある国だということを知り、国土を愛する感情を体験する。
- 3、我が国は数千年の歴史を持つ文明的な古い国であることを知り、中華民族の世界文明に対する重大な貢献を感じ取り、民族の誇りと自信を芽生えさせる。
- 4、近代以降の列強の中国に対する侵略が中国人民に与えた屈辱と危害を知り、中国人民が、特に中国共産党の指導者のもとで、国家を滅亡から救い生存を図った戦いの事例を知り、革命の先人を敬愛し、奮って国家の富強を図る愛国の志を打ち立てる。
- 5、新中国の成立と改革開放以降に得た成果を知り、中国共産党に対する熱愛を深める。
- 6、人民解放軍が祖国を防衛し平和を維持する重要な力であることを知り、解放軍を熱愛する。
- 7、我が国は一つの統一した多民族国家であることを知る。異なる民族の生活習慣と風土人情を知り、異なる民族の文化を理解し尊重し、民族の団結を深める。

以下は「世界に近づく」の記述である。（数字は「内容標準」に記述されたものである。）ここでは、地理、歴史、政治だけでなく、科学技術、環境も道徳の一環として扱われ、地球全体を視野に入れるように促される。

- 1、世界の海陸分布及び主要な地形などの基本常識の初歩を知る。
- 2、人類の文明遺産をかいつまんで理解し、世界の歴史や文化に対する興味をかき立てる。
- 3、いくつかの国と地域と民族の生活習俗や伝統的な祝

祭日、服飾、建築、飲食等の異なる様子を比較し、多種の文化の違いや豊かさについて知り、異なる民族や異なる文化の創造に対し、尊重し敬意をはらう態度を持つ。

- 4、日常の生活用品を通じて、世界経済の発展と関係およびそれが人々の生活に与える影響を感じ取る。
- 5、科学技術と人々の生活や社会の発展の関係の初歩を理解し、科学技術が人類に幸福をもたらすことを認識する。科学の精神と態度を尊ぶ。
- 6、環境の悪化、人口の急激な増加、資源の欠乏は、現在世界が直面している共同の問題であるということを理解する。人と自然、人と人が調和して共存することの重要性を理解し、「人類はただ一つの地球を

もつ」に含まれる意味を感じ取る。

- 7、平和の素晴らしさと、戦争が人々にもたらす苦難を感得し、平和を熱愛する。
- 8、我が国が加入する国際組織について知り、国際組織の役割について理解する。

各教科書は、「戦争」<sup>48</sup>の記述に関して、地理・歴史に関わる構成から、2つのグループに分けられる。表1と2に教科書名と目次を示す。

表1. アヘン戦争以来の歴史を、祖国中国の忘れることのできない屈辱の歴史として記述する教科書と目次

人民教育出版社版	山東教育出版社版（5・4制）
「品德と社会」6年上 第2単元 屈服しない中国人 pp.29-56 忘れることのできない屈辱 立ち上がれ、奴隷になりたくない人々よ 中華民族のために立ち上がる （抗日戦争）pp.34-36, pp.42-43 （南京大虐殺）p.36	「品德と社会」5年上 第2単元 屈服しない中国人 pp.27-54 忘れることのできない屈辱 立ち上がれ、奴隷になりたくない人々よ 中華民族のために立ち上がる （抗日戦争）pp.32-35, pp.40-41 （南京大虐殺）p.34 *人民教育出版社版に準ずる
教育科学出版社版	広東教育出版社版
「品德と社会」5年下 第3単元 忘れられない歴史 pp.44-65 ① 円明園の訴え ② 南京大虐殺記念碑の前で ③ 奴隷になりたくない人びと ④ 中華を振興する 私たちの責任 （抗日戦争）pp.49-54, pp.58-60 （南京大虐殺）pp.49-50	「品德と社会」5年上 第3単元 不屈の民族 pp.34-68 ⑦ 悲壮な古い砲台 ⑧ 中山 <sup>49</sup> の郷里に足を踏み入れる ⑨ 南湖の赤い船 <sup>50</sup> が波を打ち破る ⑩ 黄河は怒号している （抗日戦争）pp.60-68 （南京大虐殺）p.62
江蘇教育出版社版	山東美術出版社版
「品德と社会」5年下 第3単元 重大な災難から抜け出る（上）pp.54-85 第8課 アヘンの背後 第9課 中山陵前	「品德と社会」5年下 第1単元 不屈の中国 pp.1-28 1、円明園は訴えている 2、中山陵前の追憶 3、南湖遊覧船上の夜明けの光



<p>第 10 課 南湖遊覧船</p> <p>第 4 単元 重大な災難から抜け出る (下) pp.77-122</p> <p>第 11 課 李おばあさんの体の傷跡</p> <p>第 12 課 血と肉の長城を築き上げる</p> <p>第 13 課 中国人民は立ち上がった</p> <p>(抗日戦争) pp.86-109</p> <p>(南京大虐殺) pp.86-97</p>	<p>4、盧溝橋上の銃声</p> <p>5、中国人民は立ち上がった</p> <p>(抗日戦争) pp.18-23</p> <p>(南京大虐殺) p.20</p>
北京師範大学出版社版	北京：首都師範大学出版社版
<p>「品德と社会」5 年下</p> <p>六 人民の英雄に敬意を払う pp.54-95</p> <p>1、国辱を忘れない</p> <p>2、覚醒した中国人民</p> <p>3、光り輝く歴史</p> <p>4、黄河は怒号する</p> <p>5、中国人民は立ち上がった</p> <p>(抗日戦争) pp.74-85</p> <p>(南京大虐殺) pp.78-79</p>	<p>「品德と社会」5 年下</p> <p>忘れることのできない歴史 pp.80-106</p> <p>1、アヘンが開国の門をたたく</p> <p>2、主権を失い、国家を辱められた痛み</p> <p>3、滅亡から救い、生存を図る模索</p> <p>4、民族解放の道</p> <p>(抗日戦争) pp.99-102</p> <p>(南京大虐殺) p.100</p>

表 2. 地理と関連づけ、歴史を故郷の物語、都市の記憶として記述している教科書と目次 <sup>51</sup>

遼海出版社 <sup>52</sup> 版	上海：上海科技教育出版社版 (5・4 制)
<p>「品德と社会」3 年下</p> <p>第 2 単元 故郷の物語はたくさんある</p> <p>語り尽くせない故郷の物語 pp.26-33</p> <p>「品德と社会」5 年下</p> <p>第 2 単元 私たちは旅に出る</p> <p>② 六大古都 pp.44-47</p> <p>「品德と社会」6 年上</p> <p>第 1 単元 文明繁栄に向かって歩む中国 pp.1-42</p> <p>① 覚醒と救国</p> <p>② 五星紅旗が揚がる</p> <p>自由天地—革命に殉じた烈士の事績を伝える</p> <p>③ 前進する巨人</p> <p>(抗日戦争) 6 年上 pp.14-17</p> <p>(南京大虐殺) 5 年下 p.46</p>	<p>「品德と社会」4 年 1 学期</p> <p>第 2 単元 都市の記憶</p> <p>② 建築のこだま pp.28-35</p> <p>「品德と社会」5 年 1 学期</p> <p>第 3 単元 勢いよく流れる長江 pp.52-65</p> <p>① 古き文明の証人</p> <p>② 「鐘山風雨」の帝王州—南京</p> <p>③ 多くの船が集まる街—武漢</p> <p>④ 「巴山夜雨」の霧の都—重慶</p> <p>⑤ 共に長江の新たな歴史を刻む</p> <p>(抗日戦争) 5 年 1 学期 pp.54-55, pp.58-61</p> <p>(南京大虐殺) 5 年 1 学期 pp.54-55</p>

表1に示した教科書は、「戦争」の歴史の中で、外国による侵略と抵抗を中心に以下の事件を列举する。1840年アヘン戦争と1842年「南京条約」締結、1860年円明園の焼失、1894年甲午戦争（筆者注：日清戦争）と1895年「馬関条約」締結、1900年八国聯軍侵華戦争と1901年「辛丑条約」締結、1911年辛亥革命、1919年五四運動、1921年中国共産党成立、1927年南昌蜂起、1931年「九一八」事変（筆者注：満州事変）、1934年紅軍長征、1937年7月盧溝橋事変・12月南京大虐殺、1945年抗日戦争勝利、1946年人民解放戦争、1949年中華人民共和國成立。

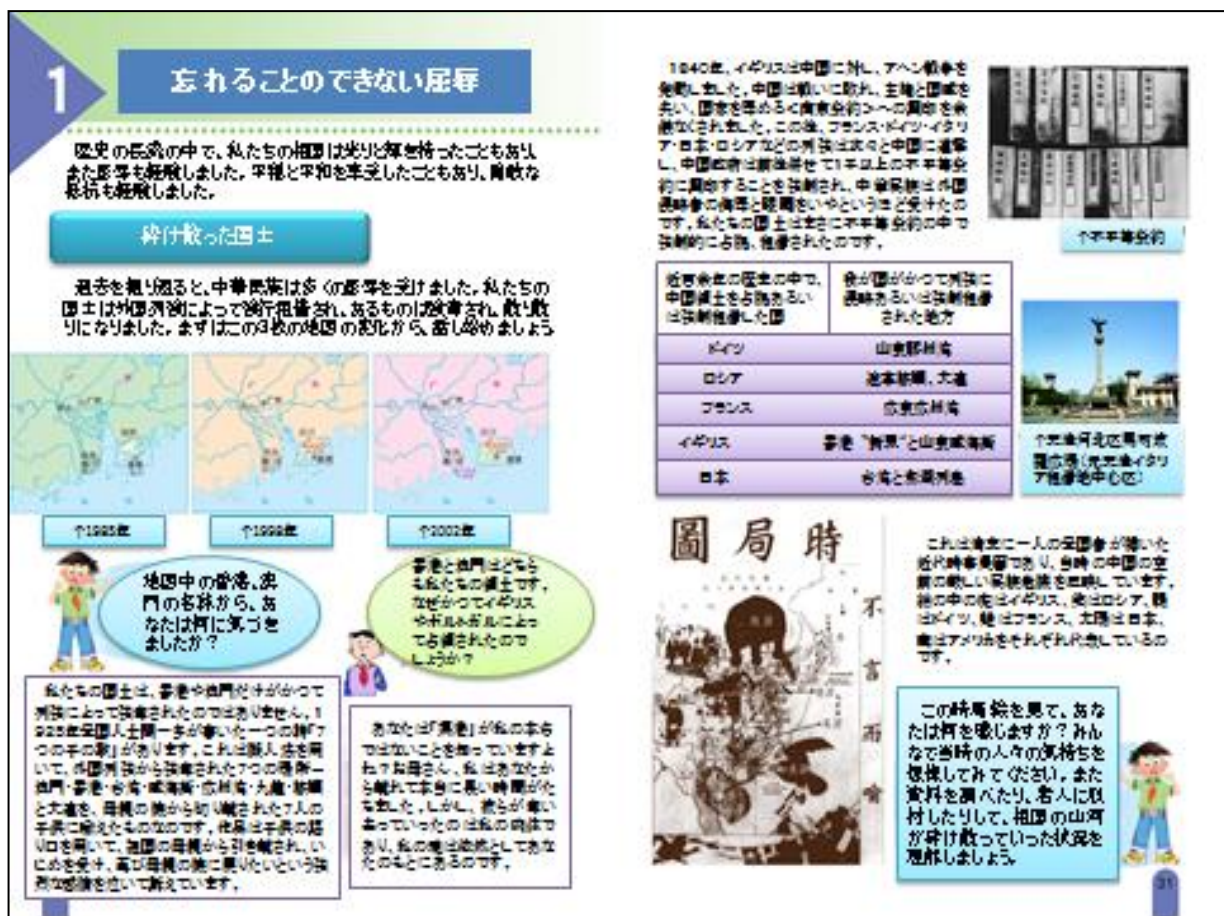
すべての教科書が、「戦争」を、イギリスとのアヘン戦争に始まり、百年余りにおよんだ厳しい戦いによって外国列強との間に不平等条約を締結させられ、①国土の多くが強奪され、②名所旧跡は廃墟となり、③貴重な文物が奪われ、④多くの人民が犠牲となった「忘れることのできない屈辱の歴史」という大きな物語として語って

いる。

以下で教科書の具体的な記述を見ていく。＜＞は教科書の見出しである。

①「国土の多くが強奪され」という具体的な教科書の記述をあげると、「私たちの国土は、香港や澳門だけがかつて列強によって強奪されたものではありません。1925年に愛国人士聞一多が書いた一つの詩《七つの子の歌（七子之歌）》<sup>53</sup>があります。これは擬人法を用いて、外国列強から強奪された7つの場所—澳門・香港・台湾・威海衛・広州湾・九龍・旅順と大連を、母親の懷から切り離された7人の子どものように喩えたものなのです。」（人教版6年上 p.30＜砕け散った国土＞図Ⅱ-2-1）と、強奪された国土を紹介する。

この《七つの子の歌（七子之歌）》は、山教版5年上 p.28＜砕け散った国土＞、教科版6年下 pp.40-42＜光り輝く瞬間—お母さん、ただいま＞、広教版5年上 pp.76-81＜五星紅旗、私はあなたを誇りに思う—燦爛たる姉妹



図Ⅱ-2-1 人教版6年上 p.30（左） p.31（右）

花>、江教版 5 年下 pp.64-65<なぜたたかれるかー母親の七つの子>、山美版 6 年上 pp.12-17<急成長する中国ー満開の蘇芳花>、北師版 5 年上 pp.81-84<中華民族の願いーさすらいの子、家に戻る>、北京：首師版 5 年上 pp.16-22<祖国の領土は分割できないー香港・澳門復帰の喜び>にも記載される。

また、清朝末に描かれた時事漫画「時局図」を掲載し、「これは清末に一人の愛国者が描いた近代時事漫画であり、当時の中国の空前の厳しい民族危機を反映しています。絵の中の虎はイギリス、熊はロシア、腸（腸詰め）はドイツ、蛙はフランス、太陽は日本、鷹はアメリカをそれぞれ代表しているのです。」（人教版 6 年上 p.31 図 II-2-1）と、奪われた土地と奪った国々を象徴的に表現する。この漫画は、山教版 5 年 p.29、北師版 5 年下 p.63、遼海版 6 年上 p.8、北京：首師版 5 年下 p.92 にも掲載される。

戦争によって強奪された国土は、抗日戦争の偉大な勝利の後、祖国への復帰を果たす。「1945 年 10 月、台湾は祖国の懷に戻り、日本帝国主義の台湾に対す 50 年の長きにわたる統治が終結しました。」（北師版 5 年下 p.85）「1997 年 6 月 30 日夜、…100 年余の屈辱が今夜まさに洗い清められるのです。香港、この中華民族の恥辱が彫り刻まれた土地、この東方の珠玉と呼ばれた美しい港が祖国に返り母親の懷に抱かれようとしています。…香港が祖国に復帰しました！中華民族の願いが終いに実現したのです！」（同 5 年上 p.81）「1999 年 12 月 20 日、中華人民共和国政府は澳門に対し主権の行使を回復し、澳門は特別行政区となりました。」（同 p.83）と記し、香港と澳門の復帰を「中華民族の百年の屈辱を洗い流す」（同 p.84）出来事として記述する。同様に各教科書で香港と澳門の復帰を記す。

台湾については、「祖国の領土は神聖で犯すことはできません。台湾は昔から中国の領土であり、切り離

すことのできない一部分なのです。」（教科版 4 年下 p.84）とする。「台湾問題の由来」として、「1949 年 10 月 1 日、中華人民共和国が成立した。新中国誕生の日から“中華民国”のその歴史的地位は終結し、“中華民国政府”が中国主権を行使する歴史は終結しました。中華人民共和国は全中国唯一の合法政府で国際上唯一の合法代表であり、もともと“中華民国政府”が中国を代表し行使していた台湾省を含む全中国の主権を継承するのは道理にかなっています。国民党勢力が大陸から台湾に退散したあと、台湾当局は外国勢力の扶助と台湾海峡の天險を笠に着て、祖国大陸と海を隔てて対峙しました。台湾当局はまだ“中華民国”や“中華民国政府”の名をかたっています。それはとくにその合法性を失っており、中国を代表して国家主権を行使する権利は全く持っておらず、事実上ただ中国領土上の一つの地方当局に過ぎないのです。台湾問題は中国歴史上に残された問題なのです。台湾海峡の兩岸は今もなお統一されていませんが、大陸と台湾が同じ中国に属するという事実はいまだかつて改変されたことはありません。」（江教版 6 年上 p.50）と説明する。さらに「1949 年以降、台湾はまた祖国大陸と分離状態にあります。祖国の完全統一を実現し、中華民族の偉大な復興をなすことが、全ての中国人の神聖な使命であり、崇高な目標なのです。」（広教版 5 年上 p.84）「国家統一実現のために、中国政府は長期にわたりたゆまぬ努力を行ってきました。中国政府が台湾問題を解決する基本方針は“平和統一、一国二制度”です。」「2004 年



図 II-2-2 人教版 5 年上 pp.58-59



元旦、国家主席胡錦濤は新年の祝辞を発表し、最大の誠意を持って最大の努力を尽くして、祖国の平和統一を実現することを強調しました。」（同 p.87）とし、「祖国は必ず統一する」（人教版 5 年上 p.62）と記す。人教版の該当ページ（台湾に関する記述）5 年上 pp.58-63 を、図 II-2-2～4 で示す。

台湾に関する記述は、以下のように、各教科書にみられる。人教版 5 年上＜私は祖国の自然を愛する－祖国の宝島台湾＞pp.58-63、山教版 4 年上＜私は祖国を愛する－美しい宝島台湾＞pp.11-16、北師版 5 年上＜私たちは同じ一つの家を持つ－宝島の子供の願い＞pp.85-87、教科版 4 年下＜祖国は本当に大きい－海峡の兩岸は統一を望む＞pp.84-87、広教版 5 年上＜不屈の民族－共同の心の声＞pp.82-88、江教版 6 年上＜私は祖国と一緒に成長する－海を隔てて向き合う＞pp.46-55、山美版 5 年上＜中国をあまねく歩く－美しい宝島＞pp.25-29、遼海版 5 年上＜中国で成長する－本当に大きい家－台湾：祖国の分割できない一部分＞pp.38-39、北京：首師版 5 年上＜祖国の領土は分割できない－兩岸同胞は統一を望む＞pp.19-22、上海：科技版＜果てしなく広い国土－宝島台湾＞pp.12-15。

台湾の詩人余光中の詩《郷愁（乡愁）》<sup>54</sup> が、北師版 5 年上 p.85、広教版 5 年上 p.88、江教版 6 年上 p.53、山美版 5 年上 p.29 に掲載され、子どもたちに、詩人の心情を感じ取るよう促している。

教科版 4 年下 p.86 は、21 歳の時台湾に渡った老人が、中国大陆に思いをはせる手紙を掲載し、「祖国統一を促進するために、私たち小学生は何が出来るかな？」と問い、「台湾の子どもたちに手紙を書こう！」と促す。同様に、北師版 5 年上 p.86 は、阿清という台湾の子どもが北京の友人にあて

た手紙を掲載し、「阿清の手紙を読んで、あなたは台湾の子どもたちに何を話したいですか？ クラスメートの意見を集めて、台湾の子どもに手紙を書きましょう！」と、手紙を書く活動を盛り込む。江教版 6 年上 p.54 は、中国大陆で勉強している台湾の子どもが台湾のお祖父さんにあてた手紙を掲載し、「もし台湾の子どもたちがあなたたちを訪ねてきたら、あなたは彼らに何と言いたいですか？ 彼らに聞きたいことは何ですか？」と問い、討論を促す。

これらは、「課程標準」の「内容標準」で「私は中国人」の中に示された 1、4、5、7 の指示を受けた内容である。

習近平国家主席は、台湾親民党主席宋瑜一行と会見した際の談話「兩岸関係の前途と民族の偉大な復興の実現という重任を担う」<sup>55</sup>（2014 年 5 月 7 日）で、「台湾独立」勢力の企みに反対し、共に「兩岸関係の平和的発展」を推進していくことを強調している。台湾問題は、中国大陆と台湾の兩岸問題にとどまらず、日本をはじめ近隣諸国にとっても、避けることのできない課題である。



図 II-2-3 人教版 6 年上 p.30(左) p.31(右)





図Ⅱ-2-4 人教版 5 年上 pp.62-63

②「名所旧跡は廃墟となり」の象徴が円明園である。

「北京に位置する円明園は総面積が約 350 ヘクタールあり」（人教版 6 年上 p.32）、「前後 150 年をかけて建造され」（北師版 5 年下 p.59）、「園内の湖の美しい景色は人々を魅了し、無数の珍しい宝物や有名な書画などが大切に保存されていました。それは中国歴史上最も精緻で美しく壮観な皇室の庭園であっただけでなく、世界で名高い博物館、芸術館でもあり、西洋人からは“庭園の中の庭園”と称えられていました。」（人教版 6 年上 p.32）。しかし、「1860 年 10 月 18 日、英仏連合軍が円明園に侵入しました。…英国全権大臣エルギンの命令で円明園は焼き払われました。」（教科版 5 年下 p.45）。「円明園の大火は三日三晩に及び、華麗で堂々とした宮殿や豪華で壮観な庭園は、すべて廃墟と化しました。」（広教版 5 年上 p.40）と説明する。さらに「今日、私たちの国はこんなに強大になり、私たちの生活はこんなに幸福ですが、かつての屈辱の歴史を忘れてはいけません。国家が隆盛している時、私たちは奇跡の建築を創造する

能力をもっていました。国家が衰退すると、それを守る能力すら失ってしまいました。」（北師版 5 年下 p.59）と語る。

この円明園は、「数千年の歴史を持つ文明的な古い国である」中国の文明の精華であり、その焼失が中国人にとって如何なる恥辱を意味するかを、子どもたちに考えさせ印象付けるうえで貢献している。

円明園の焼失の記述は、以下のように、分析した 10 種類全ての教科書に見られる。人教版 6 年上 pp.32-33<略奪された中国国宝>、山教版 5 年上 pp.30-31<略奪された中国国宝>、教科版 5 年下 pp.45-46<円明園の訴え>、広教版 5 年上 pp.40-41<悲壮な古い砲台>、江教版 5 年下 pp.58-59<侵略者が犯した大罪—円明園を火で焼く>、山美版 5 年下 pp.2-3<円明園は訴えている>、北師版 5 年下 p.59<遺跡を訪れ歴史を知る—円明園を弔う>北京：首師版 5 年下 pp.88-89<主権を失い、国家を辱められた痛み—“庭園の中の庭園”の災難>。表 2 に示した教科書では、都市の記憶として円明園の焼失が描かれてい

る。遼海版 5 年下 p.55<第 6 地点、守衛の都 北京・円明園>、上海：科技版 5 年 1 学期 p.33<巍巍たる都 北京—円明園>。

なお、中国では、この円明園の遺跡をどのように保存すべきかが議論されてきた。江教版 5 年下 p.59 は、二つの観点「円明園を再建し、『昔日の皇室庭園の輝きを再現する』ことを望む」と「この廃墟はまさに侵略者たちが罪を犯した現場であり、そのままの状況を保存し、後人に気づきを促すべき」があることをあげ、「あなたはどの考えに賛成ですか？ どうしてですか？」と問い、討論を促す。広教版 5 年上 p.40 図Ⅱ-2-5 は、「焼き払わ



図Ⅱ-2-5 広教版 5 年上 p.40

れた円明園遺跡には、現在円明園遺跡公園が新たに建設されました。あなたはこのような必要があると思いますか？」と問いかけ、考えるようにしむける。北京：首師版 5 年下 p.89 図Ⅱ-2-8 は、円明園遺跡公園を参観した子どもの日記を掲載し、日記の最後を「今日の参観を通して、私は屈辱と憤怒を覚えただけでなく、歴史の責任を感じた。『少年強ければ、すなわち国家強し』祖国の明日がもっと強く勢い盛んなものになるために、私はもっと

努力しよう。」と結び、「休暇を利用して、親と一緒に円明園を参観し、自分が感じたことを話そう。」と子どもたちに体験を促す。遼海版 5 年下 p.55 は、「我が国政府はかつて円明園の修復計画をたてたが、修復の工程は 1、2 年ではなく、10 年、20 年の長期におよぶという。しかし、絶え間なく強く豊かになっていく中国は、きっとこの東方の奇跡である円明園を再現できると、私たちは信じている。」と結ぶ。

これらは、「課程標準」の「内容標準」で「私は中国人」の中に示された 3、4、5 の指示を受けた内容である。

かつて中国文明の精華であった円明園の焼失と現存する遺跡は、「立ち遅れれば打たれる」という恥辱の歴史を語る上で欠かせない史実とその証拠である。さらに、中国人民を団結させ、中国をより強く富んだ国へと向かわせる象徴でもある。

③「貴重な文物が奪われ」に関しては、「1860 年 10 月、侵略軍が円明園に侵攻し、狂気じみた略奪を行い、彼らは無数の貴重な宝物を奪い去っていきました。」とし、「我が国の関係部門の不完全な統計によると、世界 47 か国の 200 以上の博物館の中にある中国文物は 100 万件を下らず、その多くが逸品だということです。今日イギリスの大英博物館やフランスのフォンテーヌブロー、アメリカ、ニューヨークのメトロポリタン美術館などで、人々は円明園から来た貴重な文物のほんの一部を見ることができます。しかしかつて円明園に属した圧倒的多数の文物の行方はわからないままなのです。」（人教版 6 年上 p.33<略奪された中国国宝>）と説明する。さらに、「イギリス、フランスの侵略者が我が国の円明園に放火し、焼き払ったのち、1861 年 11 月、フランスの有名な文豪ユーゴー（1802 - 1885）はバトラーという名の上尉に手紙を送り、この恥ずべき行為を激しく叱責しました。」とし、英・仏連合軍中国遠征についてバトラー上尉に送った手紙の抜粋を記載する。手紙には「我々が所有する大教会の財宝をすべてあわせても、まだこの東洋の素晴らしく華麗で堂々たる博物館には及ばなかったかもしれません。そこには貴重な芸術品があっただけでなく、大量の金銀製品もあったのです。偉大な功績！巨大な収穫！二人の勝利者は、目に見える満杯の財布と満たされた心を携え、手に手を取り、にこにこ笑



# 略奪された中国国宝

列強の野蛮な行為が遍くつくつて、中国の多くの名所は跡はたなごみと化していき、一千万円以上になる貴重な文物が、彼らによって盗ったように盗まれ、外国に搬送してしまわれた。これは中華民族の恥辱であったばかりで、人類文明史上前代未聞の大きな災禍でもあった。

北京に位置する内務府は総面積が約350ヘクタールあり、焼き払われる前は、園内の美しい景色は人々を魅了し、無数の珍しい動物や貴重な宝物などが大切に保存されていた。それは中国国宝上最も数多く集った文化遺産の宝庫であっただけでなく、世界でも高い評価を受け、美術館でもあり、西洋人からは「宝庫の中の宝庫」と呼ばれていた。

内務府の部分風景 万善軒 (清代宮廷御製)

1900年10月、英清戦争の内務府に侵入し、往々にみた略奪を行い、彼らは無数の貴重な文物を奪い取っていった。持ち出さぬ大きな宝物は打ち壊された。最後には内務府に火を放ち、大火は三日三晩にわたって燃え続け、内務府は焼滅した。

内務府の2枚の図の複製を見て、あなたはどうな感想を持っていたか？

これらいくつかの貴重な品は1900年に北京内務府から略奪されたものです。2000年私たちは大々として、国外から買い戻しました。

みなで考えてください：  
 ①あなたは略奪された国宝を、大金を払って買い戻さなければならなかったのを想像して、どう感じるかな？  
 ②あなたはなぜこのように思っているのか？  
 ③あなたはなぜこのように思っているのか？

図Ⅱ-2-6 人教版6年上 pp.32-33

**ニュースリンク**

ここ数年、巨額を投じて、帝國主義により破壊された、あるいは破壊の原因で海外に流出した文物を買い戻している人がある。その中でも人々の注目をひいたのが、3つの傑出した銅像、虎頭、龍頭、牛頭である。それらは莫大仙臺が円明園に復元した時、略奪した十二主神銅像の中の一つである。関係方面が数千万の莫大を費やし、オークションによりこの3つの国宝を買い戻したのである。

虎頭 龍頭 牛頭

数千万使って、3つの銅像を買い戻す価値がありますか？

**小知识**

米古尔中将率领的第一师，由北京的近郊附近直达圆明园，将皇帝的宫苑一片纵火焚烧。此两月中，黑烟所成的浓云，横空笼罩其上。往昔富丽豪华的区域，而今化为灰烬。有风自西北来，吹其如雷，直过我军营之上，直抵北京城……

——[英] 威利士侯爵《与中国之战争》

**小知识**

据估计，被劫掠和破坏的财产，总值超过六百万英镑。在场的每个军人都掠夺很多。在进入皇宫后，谁也不知道该拿什么东西。为了拿金子，而把银子丢了；为了拿镶有珠玉的饰品和宝石，又把金子丢了；无价的瓷器和漆器，因为太大不能运走，竟被打碎。

——英国《泰晤士报》当时的报道

図Ⅱ-2-7 広教版 5 年上 p.41

## 日記

10月9日晴

今天爸爸带我来到圆明园遗址公园。这个公园有点与众不同。小径是残破的。很多地方只有地基没有建筑物。尤其是爸爸领我来到一个叫远瀛观的地方。我看到屹立的精美然而残破的石柱。百思不解的我在爸爸的诉说中知道了这里曾经发生的那一幕。1860年10月6日，英法联军闯进圆明园，大肆抢劫。这帮强盗为金盒子，卖掉珠子，抢了珠宝又把金盒子卖掉。无价的瓷器和珍味因为拿不了而被打碎。三天洗劫之后，园中珍贵的字画满地飞落，到处一片狼藉。为掩盖暴行，一把大火烧毁了这座世界名园。听着爸爸的诉说，望着那巨大的精美而残破的石柱，我想象着圆明园曾经的辉煌。如今它们已经成为历史的证人，在无声控诉着侵略者的罪行。通过今天的参观，我感受的不仅是屈辱和愤怒，更感到历史的责任：“少年强则国家强”。为祖国明天更加强大，我一定努力学习。



铜牛首
铜虎首
铜狮首
铜马首



これらは、かつて  
外国列強が円明園  
から破壊していった  
国宝です。今は  
祖国に帰ってきました。



帰ってきた国宝は  
私たちに、あの屈辱  
の歴史を教える  
ことではないかと  
思っています。

**体験：**  
休みを利用して、両親と一緒に円明園を参観し、クラスメートに自分の感想を話してみましょう。

图 II-2-8 北京首都版 5 年上 p.89

いながら欧州に戻ってきました。これがまさしく二人の強盗の物語です。」(同 p.33) (山教版 5 年上 p.31) とある。手紙の抜粋は、遼海版 5 年下 p.55、北京：首師版 5 年下 p.88 にも掲載される。

人教版 6 年上 p.32 図Ⅱ-2-6 は、円明園から強奪されたとする十二生肖獣首銅像 3 体の写真を掲載し、「私たちは大金をはたいて、国外から買い戻しました。」と記し、「あなたは略奪された国宝を、大金を払って買い戻さなければならなかったのを知って、なにを感じどんな気持ちになりましたか？」と問いかける。広教版 5 年上 p.41 図Ⅱ-2-7 は、3 体の写真を載せ、「数千万元使って、3 つの銅獣頭を買い戻す価値がありますか？」と問いかける。北京：首師版 5 年下 p.89 図Ⅱ-2-8 は、4 体の写真を掲載し、「これらは、かつて外国列強が円明園から強奪していった国宝です。今は祖国に帰ってきました。」「帰ってきた国宝は私たちに、あの屈辱の歴史を忘れることはできないと呼びかけています。」と子どもに語らせている。

これらの記述は、「課程標準」の「内容標準」で「私は中国人」の中に示された 3、4、5 の指示を受けた内容である。

燦爛と輝く文明の歴史をもつ中国に土足で踏み込み、やりたい放題に残忍行為をはたらき、好きなだけ財宝を強奪していった外国列強と、抵抗できないほどに凋落していた清朝政府、そして、奪われた財宝を買い戻すまでに強く豊かに成長した現在の中国を、鮮やかなコントラストで描くことで、子どもの印象を深める効果をもたらしているといえる。

④「多くの人民が犠牲となった」として、教科版 5 年下 p.48 は、八国聯軍の残虐行為を「北京占領後、侵略者は 3 人 1 組、5 人 1 隊となって、おおっぴらに強奪を行い、罪なき人を虐殺し、悪の限りを尽くし、世間を驚かせる罪行を侵した。『京内にはいたるところに死体が転がり、腐った肉と白骨が散乱した』これは当時の情景を真に映し出したものである。」と記す。江教版 5 年下 p.61<侵略者が犯した大罪(天まで溢れるほど大きな罪)>には、「中日甲午戦争中、日本軍は旅順において中国人を惨殺し、全市で約 2 万人が殺され、幸いにも難を免れた人はたった 36 人だった。」とある。

では、日本軍によってもたらされた犠牲について、どのように記述されているかを以下で見ていく。人教版 6 年上 p.34<忘れることのできない屈辱—日本の屠殺用刃物の下で血塗られた悲惨な歴史—蹂躪された東北の沃土>には、「1931 年 9 月 18 日夜、日本の中国駐留東北侵略軍—関東軍は、南満州鉄道の軌道を自ら爆破し、それを中国軍がやったと無実の罪を着せ、これを口実にして突然北部大本営に駐留していた東北軍と瀋陽市街を襲撃しました。」とあり、1931 年 9 月 18 日を、「日本による中国侵略戦争が幕を開けた」日とする。教科書では「九一八」事変」と記され、その記述は以下に見られる。山教版 5 年上 p.32<忘れることのできない屈辱—日本の屠殺用刃物の下で血塗られた悲惨な歴史—蹂躪された東北の沃土>、教科版北師版 5 年下 p.74<忘れられない歴史—南京大虐殺記念碑の前で>広教版 5 年上 p.61<不屈の民族—黄河は怒号している>、江教版 5 年下 p.86<重大な災難から抜け出る(下)>、山美版 5 年下 p.19<不屈の中国—盧溝橋上の銃声>、北師版 5 年下 p.74<人民の英雄に敬意を払う—黄河は怒号する>、北京：首師版 5 年下<忘れることのできない歴史—民族解放の道>、



図Ⅱ-2-9 広教版 5 年上 p.61



遼海版 6 年上 p.14<文明繁栄に向かって歩む中国―覚醒と救国―抗日戦争勝利>。

広教版 5 年上 p.61 図Ⅱ-2-9 は、「半年もたたないうちに、東北三省百余万平方キロメートルの美しい国土は、すべて敵の手に陥落しました。」と記す。遼海版 6 年上 p.14 は、「東北三省が陥落した後、3000 万東北同胞は、日本帝国主義の残虐非道な行為の下で、14 年間に及ぶ亡国奴隷の生活を送りました。亡国の奴隷となることを望まない多くの東北庶民は、故郷を離れるしかありませんでした。彼らは血と涙を含ませて叫びました『私たちは故郷に帰りたい、故郷に帰る！』と。」と記述し、故郷を追われて流浪する悲しさを歌った抗日歌曲《松花江の

は“七七事変”とも呼ばれている。その「天まで溢れるほどの大罪」とは、「大掃蕩」や「三光（三つくし）政策：すべてを奪いつくし、殺しつくし、焼きつくす」と記される（人教版 6 年上 p.43）（広教版 5 年上 p.62）（教科版 5 年下 p.52）。

日本軍による虐殺行為については、10 種類全ての教科書が記述する。遼海版と上海：科技版は、地理と結び付け、故郷の物語や都市の記憶として記述している。南京大虐殺に関しても南京の記憶として語られている（遼海版 5 年下 p.46 図Ⅱ-2-10、上海：科技版 5 年 1 学期 pp.54-55 図Ⅱ-2-11）。



図Ⅱ-2-10 遼海版 5 年下 p.46

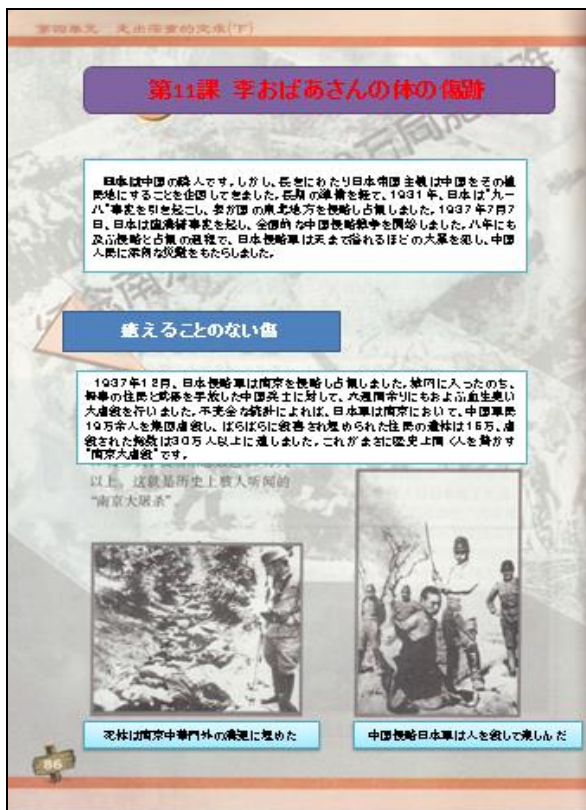


図Ⅱ-2-11：上海：科技版 5 年第 1 学期 p.54

ほとり（松花江上）》<sup>56</sup>（張寒暉作）を、広教版 5 年上 p.61、遼海版 6 年上 p.14、人教版 6 年上 p.34、山教版 5 年上 p.32、北京：首師版 5 年下 p.99 が記載している。

「1937 年 7 月 7 日、日本は盧溝橋事変を起し、全面的な中国侵略戦争を開始しました。」とし、「8 年にも及ぶ侵略と占領の過程で、日本侵略軍は天まで溢れるほどの大罪を犯し、中国人民に深刻な災難をもたらしました。」（江教版 5 年下 p.86）と記述する。“盧溝橋事変”

では、南京市で使用されている教科書は、どのように記述しているのだろうか。南京市を中心に江蘇省だけでなく全国で広く採択されている（正確な統計はない）江教版は、南京大虐殺を中心に、抗日戦争に関する記述に力を注ぎ、24 ページを割いている。その記述は被害の強調に止まらず、日本との和解の努力も記述して周到である。江教版 5 年下 p.86 は「不完全な統計によれば、日本軍は南京において、中国軍民 19 万余人を集団虐殺し、ば



図Ⅱ-2-12 江教版5年下 p.86



图 II-2-13 江教版 5 年下 p.87



图 II-2-14 江教版 5 年下 p.88



图 II-2-15 江教版 5 年下 p.89



東部地区 大田区・大田区・大田区

## 数えきれない犯罪行為

5年(11組)が行った南京大虐殺展覧会覧合は大きな成功をおさめ、会後に大きな影響を与えました。この影響を更に広げるために、大塚昭(中国少年先鋒隊の組織係)は学校全体で、「日本軍が中国で行った犯罪行為」を行ふことを決定し、全校の少年先鋒隊に、再度、中国侵略日本軍が全国各地で行った犯罪行為を収集する行動を促すことを呼びかけました。空襲の直後で、青少年先鋒隊たちは中国侵略日本軍が犯した犯罪行為が数えきれないほどあることを知りました。

## 虐民を強制(迫害)する

1937年8月13日、日本軍は上海に侵入すると、多くの難民が軍隊を抱えて家に陥れられた。8月28日16時ごろ、日本侵略軍は3歳の幼年兵で上海南側に海軍を後下し、千人を越える婦女、児童が一瞬にして立ち上る異境とともに亡くなりました。

母親を失った子供が路傍の中で泣く

## 毒ガスを使用する

### 日本侵入者が経路で行った暴行

1944年、日本軍は経路を攻め、占領し、毒ガスを投じて、この村の千人以上の軍人を一般市民を殺害しました。ただ一人の男の子が小銃を連れたハンカチで口や鼻をふさぎ、死を免れました。経路に面する所でも日本軍は毒ガスをもち、山の洞窟に隠れていた3つの村の義軍を虐殺し、死者は千人余りに上りました。

七重寺は戦史名所であり、歴史を教育する場所でもありますが、当時中国軍隊の一面がその中に閉じ込められ、日本軍はまず地陣させようとしていましたが、毒ガスを投入、山岳と雷爆炎は山の奥の小さな穴から射出しましたが、そのほかの全ての西兵、800人以上が殺害されました。戦後十年は七重寺上の書院路に八百柱土庫を建立し、これらの死んでも犠牲になつた英魂たちを祀りました。

90

图 II-2-16 江教版 5 年下 p.90

## 最新情報

2003年8月4日、東京都省庁所在地の建設工事現場で、科学毒発覚事件が発生しました。この事件はまさに中国侵略日本が当時達していたものです。8月4日午前4時、東京都府県外周防衛部の爆弾検出の運転手が北花田地下駐車場の工事現場で基礎工事を行っていたところ、5つのドラム缶を発見しました。午前9時ごろ、非常事態にはこの5つのドラム缶を既述の事件の発生に突きつけた。その結果この工事現場で捕獲して1人1人見当り4000グラム、日にこの状況が現れました。化学毒は空に降り、吸入したドラム缶を開け、液状ながら油の臭気が強くなりました。一瞬計によると中毒者は40人余りに達し、その中毒者は死亡しました。専門家の診断により、これらの患者たちはマスター・ガス中毒だといわれました。軍事専門家は現場が風の向きと化学検査を行い、日本軍が運送した化学兵器ドラム缶入リマスタート・ガスであると確認しました。

あなたはニュースパイの関知する知識を思ったことがありませんか？ どのような攻撃を待ちましたか？

以下の数字を覚えておいてください。

27万—中国侵略日本が実施した細菌戦で中国軍死27万5千人に達した。  
3000—中国侵略日本軍 731 部隊は、毎年3000キログラムの細菌を生産することができた。  
3000—中国侵略日本軍 731 部隊は、生きた人を使って実験し、その数は3000人以上（日本軍が実験しているもの以外）。

## 最新ニュース

現在までに、中国十数省の省庁、自治区の3000以上の場所から日本軍が運送した化学兵器が発見され、大部分は東京に集中しています。中国軍が認可したものは約200万トンに上り、日本政府が承認したものは約70万トンです。これら運送された化学兵器は、半世紀以上を経て、関東に浸染され、人殺しを地下に及ぼしました。結果の統計によれば、中国地下で日本軍が運送したガスや毒液で実験した人は、すでに3000人を超え、中国南北地方だけでも千人を超えています。

中国大規模試験、人数が3000人（仅日方

両側生きた人が収められ中国侵略日本の軍隊を助けて、あなたはどんな攻撃を待ちましたか？ 一人の兵士として、李は自分たちのために犠牲を払っていました。

图 II-2-17 江教版 5 年下 p.91

第四單元 走出歷史的陰影(下)

## この歴史といかに向き合うか

中国侵略日本軍が犯した犯罪行為は数え不尽。責任が重くてもゆるぎないものです。「過去の経験から教訓を。将来の教訓とする。」歴史を繰り返さないために、日本人は何としてこの歴史を反省しなければならず、当時犯した犯罪行為に対して、正しい態度を持たなければならないのです。

彼らは悔悟している

かつて中国侵略戦争に参加した日本人の一部は、海外優良心の門戸を受け、改悔してもよいもの、いるという行為を通して、墓を建てています。



戦争不審 后事之憂

中国人戦争被害者の要求を支える会」は、低空にわたり、日本の中国侵略戦争を引き起こした東条英機や東郷月、角田喜久雄や専横により被害を受けた中国人を支え、謝罪を促している日本の民間団体です。この団体は2003年8月4日、支那の黒龍江省齊齊哈爾市で発生した日本軍が毒ガスを使用した毒ガスによる被害事件にも十分な関心を示し、2003年8月13日から15日に、「元日本軍毒ガス情報ホットライン」を開演し、同情に訴えたい人々に、関係する情報の提供を呼びかけ、さらに進んだ情報収集ができるように中国被害者を支え、日本政府に対して公正な態度を行うよう求める活動を行いました。この活動のメンバーは、悔悟して、「日本が過去の侵略で犯した数々の犯罪行為を思い、今日の日本人が日軍に与与する被害者に対して、適切な態度を有する謝罪の必要を求むべきことを見る」と、日本の侵略戦争は今もなお残っていると感じてははいられない」と話しました。

日本人フリーライターの倉持純子女士は彼女の書籍「中国で死んだ父の終末の物語」を持って、中国を訪れました。倉持の父親は、日本が若い時に中国での戦争において犯した犯罪行為を後悔し、後半生日本を度め、釈放された中で過ごし、死に臨んで、世間で「悔悟の年」をたて、自分が中国で犯した犯罪行為を記録し、後人のための警告をするという遺言を残しました。倉持は中国の中で、戦争が戦争が中国人にもたらした災厄について深く反省し、父親に代わって、中国の多くの地方を巡り、悔悟し、墓を建て、――

图 II-2-18 江教版 5 年下 p.92

第四單元 走出歷史的夾道(下)

死んでも腹を割らない豊子兵(日本兵に對する諷刺)

しかし中国侵略戦争に未知した日本軍兵の一般は、青年と中国人民の鮮血で染められたものであります。生涯にわたり決して軍を離れず、彼らはやはり組織を作り、重大な戦日には彼らに忠誠する日本の青年兵に、中国侵略戦争の軍用を離れ、大連で戦いを終えさせようとする行進を行います。これらの決意で軍を離れない日本軍兵が持つ反動組織は更に一般の良心的な日本軍兵を誘引し、脅迫し、強引し、彼らが真相を面せないので、彼らの犠牲と軍を離れることを許さないのです。

日本軍国主義の亡霊が再び現れる

一般の日本軍兵が決して軍を離れないだけではなく一般の日本の政治家、日本軍による中国侵略に對する歴史的態度が意味で、毎年多くの日本政治家や政治家が組織が率られている靖国神社に参拝します。彼らの行進は侵略された人々の感情を激しく傷つけています。

日本の政治家が靖国神社に参拝する

加藤コーナ

靖国神社は日本の明治時代に建てられた慰霊堂を等とするです。日本の政治家がたびたび参拝する東京靖国神社には東京、愛知、神奈川、大阪の政治家が率われています。靖国神社は、すでに日本のための愛国精神の支柱であり、戦後の場になっているのです。

なぜ一般の日本軍兵は、日本の進んだ組織を離れないのでしょうか？

93

図Ⅱ-2-19 江教版5年下 p.93



図 II-2-20 江教版 5 年下 p.94

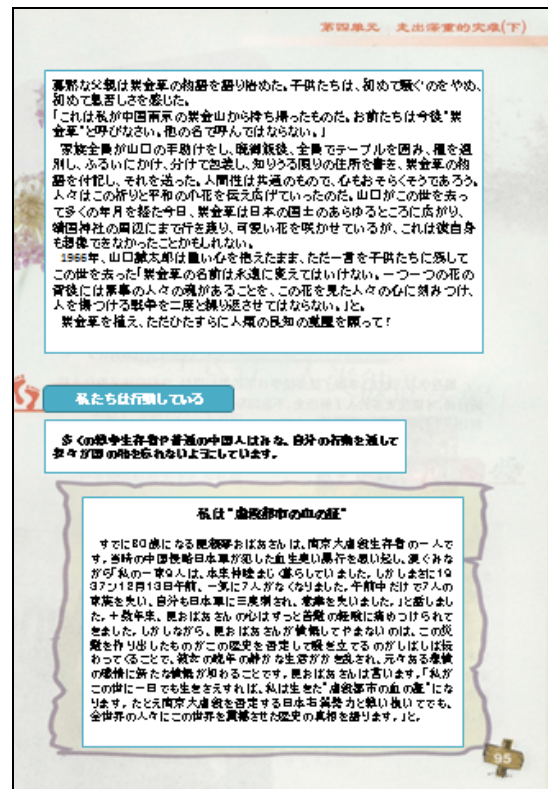


図 II-2-21 江教版 5 年下 p.95



図 II-2-22 江教版 5 年下 p.96



図 II-2-23 江教版 5 年下 p.97

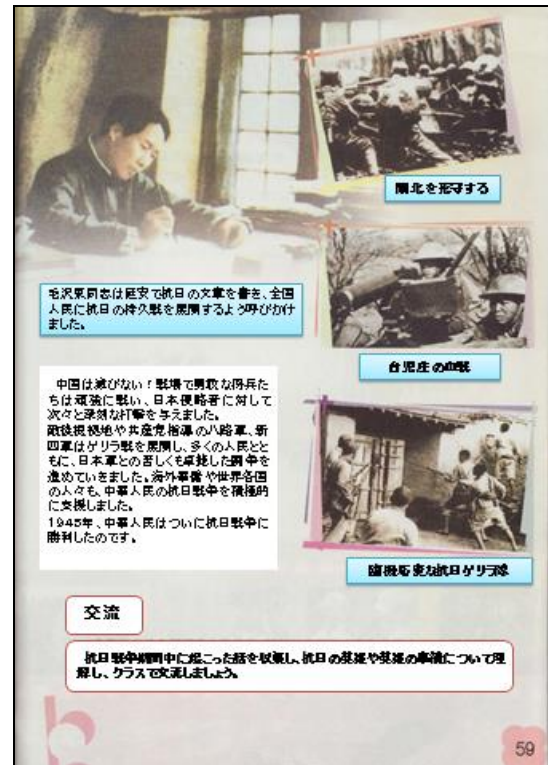


らばらに殺害され埋められた住民の遺体は 15 万、虐殺された総数は 30 万人以上に達しました」と記す。

江教版 5 年下の抗日戦争について書かれたページの一部（主に南京大虐殺を記述した部分）を図Ⅱ-2-12～23 に示す。

抗日戦争について各教科書は、「毛沢東同志は延安で抗日の文章を書き、全国人民に持久戦を展開するよう呼びかけ」「敵後根拠地や共産党指導の八路軍、新四軍はゲリラ戦を展開し」（教科版 5 年下 p.59 図Ⅱ-2-24）、「平型関戦役」、「台児庄戦役」、「百連隊大戦」で大勝利を収め、「万民が心を一つにして、男も女も老いも若きもすべてを動員して、日本侵略者との頑強な闘争を展開し」（人教版 6 年上 p.42 図Ⅱ-2-25）（山教版 5 年上 p.40）、「いたるところに活躍する抗日児童団員たちの姿があり」（北師版 5 年下 p.81 図Ⅱ-2-26）、「海外華僑や世界各国の人々も、中国人民の抗日戦争を積極的に支援し」（教科版 5 年下 p.59）、「血みどろの戦いを経て、終に日本侵略者を打ち負かし、抗戦に勝利したのです！」（山美版 5 年下 p.22）と記す。そして、盧溝橋事変からの「8 年間の抗戦で、中国人民は巨大な犠牲を払い、死傷者はあわせて 3500 万人以上、直接的な財産の損失は 1000 億ドルに上った。」と、犠牲の大きさを示し、併せて「8 年間の抗戦中、130 余万人の日本軍を

殲滅し、世界反ファシズム戦場の筆頭となった。中国人民の勝利は反ファシズム同盟国の最後の勝利として巨大な貢献を成し遂げた。」（北師版 5 年下 p.84 図Ⅱ-2-26）と、中国の勝利と貢献を語っている。



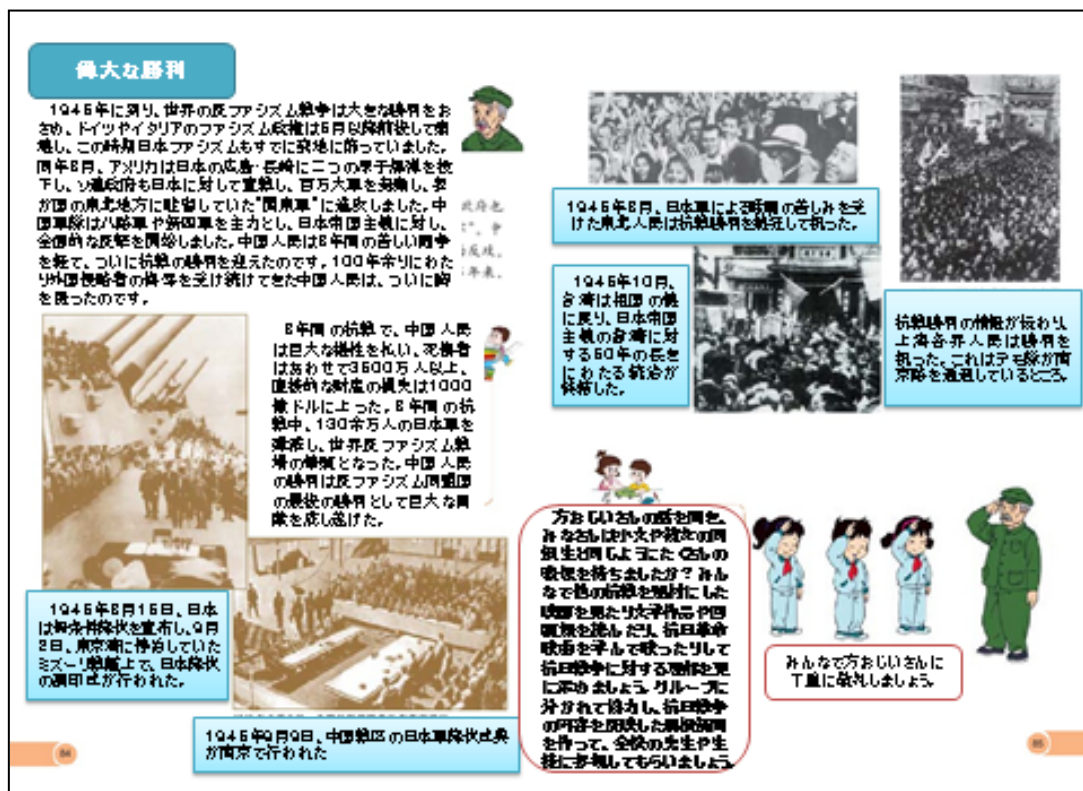
図Ⅱ-2-24 教科版 5 年下 p.59



図Ⅱ-2-25 人教版 6 年上 pp.42-43



図Ⅱ-2-26 北師版5年下 pp.80-81



図Ⅱ-2-27 北師版5年下 pp.84-85

さらに「抗戦勝利後、人々は安心して生活し、楽しく働き、穏やかな日々を過ごせると考えていました。しかし、戦争の風雲はなおも中華の大地を覆いました。蒋介石はアメリカ帝国主義の支持の下、内戦を挑発しました。中国共産党を指揮する人民解放軍の軍事力は国民党の軍隊に及びませんでしたが、広大な人民の支持を得て、わずか3年、人民解放戦争の勝利の凱旋歌の中、新中国が誕生しました。」（北京：首師版5年下 p.103）とし、屈辱の歴史から中国を救い出したのは中国共産党であり「共産党がなければ新中国はない」<sup>57</sup>（人教版6年上 p.29）（山教版5年上 p.27）（北京：首師版5年下 p.96）と語る。

「共産党がなければ新中国はない」の根拠は、抗日戦争勝利後1946年6月に勃発した国民軍との人民解放戦争を勝利に導き、新中国を成立させたことのみにあるのではない。1840年のアヘン戦争を起点とし、1949年10月1日の新中国（中華人民共和国）成立までの歴史の中で描かれる全ての事象がそれを根拠づけることに貢献している。例えば、人教版6年上<不屈の中国人—中華民族のために立ち上がる>は、以下のように記す。外国列強による侵略という屈辱を受け、「日増しに朽ち果てる祖国と向き合い、多くの愛国志士たちは中国を救うことを自らの任務とし、懸命に救国の道を探し求め」（p.44）、洋務運動によって、「曾国藩、左宗棠、李鴻章らは…西洋の生産技術を採用し、近代工業を振興し、さらに留学生を派遣し、西洋の科学技術を学ばせ…富国強兵を進めようとし」、「康有为、梁启超、谭嗣同らは、…変法を主張し、法を変えることを通して、当時の中国の後退した状況を変革しようとし」（p.45）、洋務運動と戊戌変法が失敗に終わると、「1911年10月10日夜、孫中山をリーダーとする革命勢力は、湖北武昌で武装蜂起し」、辛亥革命によって1912年中華民国が成立する（p.46）。しかし、「中華民国の成立は、決して中国の古い体制を完全に変容させたのでは」なく、「侮辱を受けず、困窮し立ち遅れた状況から抜け出すために、多くの思慮深く、正義を通す人々が依然として祖国の明日のために奮闘を続け」、「絶え間ない模索の中、彼らは救国の道を探し出す。それが1912年7月の中国共産党の誕生であり、「中国共産党の誕生は、中国の運命を徹底的に変化させ」（p.48）た。そして、「中国共産党成

立から中華人民共和国建立まで、中国共産党が人民を指導し、28年にわたる卓絶した艱難辛苦の闘争を経て」1949年10月1日、中華人民は終に新中国の誕生を迎えたのである（p.54）。つまり、百余年の「屈辱の歴史」から脱却した指導が、中国共産党の正当性を根拠づけている。

さらに、「卓絶した艱難辛苦の闘争」は、紅軍の「二万五千里长征」（p.50）や楊靖宇や董存瑞、狼牙山五壮士などの英雄の事績（p.53）に象徴され、「人民英雄記念碑上の碑文：三年来、人民解放戦争と人民革命中に犠牲になった人民英雄たちは永遠に不滅である！三十年来、人民解放戦争と人民革命中に犠牲になった人民英雄たちは永遠に不滅である！1840年に遡り、あの時から内外の敵に反対し、民族独立と人民の自由と幸福の実現を目指して、幾度ものもの闘争の中で犠牲になった人民英雄たちは永遠に不滅である！」（p.52）に象徴される。そして、「数多くの優秀な共産党員と革命の先人が自ら進み出て、熱血を注ぎ、犠牲を恐れず勇敢に戦ってきたからこそ、独立自主の新中国があり、私たちの素晴らしい今日がある」と記し、彼らをいつまでも記憶し忘れてはならず（p.53）、「共和国の創建者」である、毛沢東、劉少奇、周恩来、朱徳ら一つ前の世代の革命家は、中華民族と国家のために、献身的に尽くし、奮闘の生涯を送り、国家の歴史書に光り輝く一章を残したとし、幾代にもわたって、彼らの豊かで偉大な功績を偲ぶ（p.56 図Ⅱ-2-28）と結んでいる。

つまり、習近平国家主席が南京大虐殺犠牲者国家追悼式典のスピーチで述べた「中国国民の歴史を胸に刻み、過去を忘れず」「抗日戦争の勝利に命がけで貢献した革命の烈士たちと民族の英雄たちを追悼」することが、「私は中国人」であることに含まれ、「品德と社会」の「課程標準」の目標に示された「社会主義に適合した公民」に求められている。





図 II-2-28 人教版 5 年下 p.56



図 II-2-29 : 人教版 6 年上 p.35

習近平国家主席は南京大虐殺犠牲者国家追悼式典スピーチで「確実な証拠が山のように」と述べ、各教科書で抗日戦争の事実が以下に見るように叙述される。

各教科書は、事実として、多くの写真や新聞記事を掲載する。日本軍 731 細菌部隊元兵士の写真と証言（人教版 6 年上 p.35 図 II-2-29、山教版 5 年上 p.33）、日本軍が遺棄した毒ガス缶によって 2003 年黒竜江省齊齊哈爾で起こった事故に関する記事と写真（人教版 6 年上 p.35 図 II-2-29、山教版 5 年上 p.33、広教版 5 年上 p.60 図 II-2-30、教科版 5 年下 p.51 図 II-2-31、江教版 5 年下 p.91 図 II-2-16、遼海版 6 年上 p.55、上海：科技版 5 年第 2 学期 p.61）、『東京日日新聞』の「百人斬り」の記事と写真（広教版 5 年上 p.62 図 II-2-32）、日本に強制連行された中国人勞工劉連仁の写真と話（教科版 5 年下 p.52 図 II-2-33）、南京大虐殺被害者の証言（江教版 5 年下 p.87 図 II-2-12 李秀英、p.88 図 II-2-13 湯正有、p.95 図 II-2-20 夏淑琴、人教版 6 年下 p.36、山教版 5 年上 p.34 戎秀英<sup>58)</sup>）、加害者の証言（『東史郎日記』<sup>59)</sup>を、江教版 5 年下 p.89 図 II-2-14、北師版 5 年下 p.79、教科版 5



図 II-2-30 広教版 5 年下 p.60





図 II-2-31 教科版 5 年下 p.51



図 II-2-33 教科版 5 年下 p.52



図 II-2-32 広教版 5 年下 p.62

年下.50、北京：首師版 5 年下 p.100 で紹介）等である。写真や記事は、事実の証明ならびに事実の印象の深さに貢献している。

さらに、教科書の中で、子どもたちに対して、多くの発問や提案が行われている。以下はその一部である。

「盧溝橋上でかつてどのような事件が起こったのでしょうか？私たちは一緒に探究しましょう。」（山美版 5 年下 p.19）。「東史郎の日記を読んで、あなたたちはどう思いましたか？今日の日本の子どもたちに対して、どんなことを言いたいですか？」（北師版 5 年下 p.79）。

「近年来、日本人の中には戦争の犯罪行為を否定し、歴史の改竄を企図している人がいます。私たちは承諾できますか？」（山美版 5 年下 p.23）。「なぜ一部の日本老兵は、自分の犯した犯罪行為を認めないのでしょうか？」（江教版 5 年下 p.93）。「ここ数年、日本の一部の下心がある人々が、南京大虐殺の歴史を懸命に否定しています。グループで協力して、黒板新聞の形でいいので、事実を以って批判し反駁してください。」（北京：首師版 5 年下 p.100）。「日本の毒ガス弾がどうして中国の領土に残っているのかな？」（広教版 5 年上

p.60)「(筆者註:アメリカの)飛虎隊員のほかに、あなたは他の国から中国にやってきた抗日の国際友人を知っていますか?」(上海:科技版 p.59)。「毛沢東主席はベチューン<sup>60</sup>のことを“自分のことは顧みず、専ら人のために尽くす”人と言っています。あなたはこの言葉をどのように理解しますか?日常生活の中で、私たちはこのような精神を持つことが必要でしょうか?」(北師版 5 年下 p.83)。「中国人民は、どのようにして日本軍に抵抗し、8 年間の筆舌に尽くしがたい艱難の抗戦を行ったのでしょうか?“中国人民抗日戦争記念館”に行って、その歴史を振り返ってみましょう。」(北京:首師版 5 年下 p.101)。「抗日戦争と解放戦争の間、無数の感動的な英雄の物語が現れました。この方面の資料を収集し、クラスメートと話し合ってみてください。」(上海:科技版 5 年 1 学期 p.55)。「小説『紅岩』やそれに関する映画やテレビの作品、インターネットのサイトには、残滓洞や白公館監獄に拘禁された革命烈士の事績が記述されています。探し出してクラスメートと感じたことを話し合い、私たちはどのようにして革命の先烈の遺志と精神を継承すべきか話し合しましょう。」(上海:科技版 5 年 1 学期 p.61)。「祖国百余年の屈辱の歴史を振り返り、新中国成立の偉大な意義に対する認識をみんなで話し合おう。」(人教版 6 年上 p.55)。

こうした発問や提案を受け、子どもたちが<調査>(図書館やインターネットを使って資料を収集する、年長者に取材する、被害者の話を聞く)、<閲読>(記事や本を読む)、<体験>(映画を鑑賞する、歌を歌う、記念館を参観する)、<探究>(原因や理由を考える)、<思考>(その立場にたって考える、体感する、感想を書く)、<討論>(グループやクラス、少年先鋒隊の小隊や中隊<sup>61</sup>で話し合う)、<発表>(発表会や展示会、コンクールを行う)、<制作>(手紙を書く、贈り物を作る、黒板新聞を制作する)などの活動を行うよう促している。「良好な品德形成と社会性発展を促進する総合課程」を意識しているといえる。

愛国主義教育基地<sup>62</sup>や映画・歌曲を「品德と生活」「品德と社会」で相補うように紹介し、参観したり、鑑賞したり、歌ったりすることを「ooしてみましょう」というような表現で奨励している。これは「課程標準」の「内容標準」の中で「授業活動案」として示しているも

のである。

では、以下に「課程標準」の「内容標準」で指示された内容が、教科書の記述にどのように反映されているかを、さらにいくつかの例を挙げて説明し、その背景を分析する。

### (1) プレア首相の遺憾の意

江教版 5 年下 p.64 図 II-2-34<重大な災難から抜け出る(上)ーアヘンの背後ーなぜ打たれるー首相の遺憾の意>で、ブレア首相と精華大学学生の自由討論において、大英博物館の中に、たくさんの中国の貴重な文物がありますが、あなたは子どもと一緒に鑑賞するとき、これらの文物がどのようにして英国にやってきたと説明するのですか、との問いに対して、ブレア首相が遺憾の意を示し、「歴史が残してきた問題に対し申し訳なく思うと述べました」と書く。このエピソードとつなげて、「当時清政府が英国などの列強と不平等条約を締結した状況と照らし合わせて考えてみましょう。なぜ現在の精華大学のお兄さんやお姉さんたちは、英国の首相と面と向かって話することができるのでしょうか?英国の首相は、どうして謝ったのでしょうか?」と問いかける。



図 II-2-34 江教版 5 年下 p.64



これは、「課程標準」の「内容標準」「私は中国人」の3、4、5の指示にあたる記述の例である。数千年に及ぶ輝かしい文明の歴史を持つ中国を、侵略の屈辱の歴史から救い出した中国共産党が、新中国建国60年を経て、経済大国として世界で確固たる地位を得るまでに成長させた現状を肯定し、「中国共産党に対する熱愛を深める」ための内容であり、また「過去に誠実に向き合っ

## (2) 祖国のために勉強する

### ①祖国防衛のために勉強する

広教版5年上p.71<祖国の鋼鉄の長城(堅固な守り)>では、「中国人民解放軍は誕生から現在に至るまで、小から大へ、弱から強へ、次第に現代化した正式な部隊に発展し、先進の武器装備を保有し、祖国を防衛する鋼鉄の長城(堅固な守り)になっているのです。」とし、「これからの平和防衛事業は智慧の勝負であり、さらに多くの科学知識を持った人材が必要です。あなたは祖国防衛のために一生懸命勉強すると考えたことがありますか?」と問いかける。この部分の記述は「課程標準」の「内容標準」「私は中国人」の6と「世界に近づく」の5を統合させた内容といえる。

江沢民主席は1997年12月7日の中央軍事委員会拡大会議において「国防と軍隊の現代化建設の世紀に跨がる発展戦略目標を達成しよう」と題した演説を行い、その中で「科学技術による軍隊強化」を強調し、「特にハイテクの成果の活用を重視し」、「高い資質をもつ多くの人材の育成を軍隊の現代化建設の根幹をなす大計としなければならない。」<sup>64</sup>と主張しており、国家の人材育成の戦略と教科書の中で示される子どもたちになってほしい人材が符合しているといえよう。

### ②中華の振興のために勉強する

教科版5年下pp.61-65<中華を振興する 私たちの責任>は、「帝国主義列強はなぜあえて私たちの国土で勝手気ままなふるまいを行ったのでしょうか?あなたが知っている原因を話してみましょう。」と討論を促し、「清政府の腐敗と無能が原因だよ。」「私たちの国がとても立ち遅れていたからだよ。」と、文中で子どもたちに語らせ、「中華民族百年の屈辱の歴史は、私たちに、立ち遅れれば打たれると告げます。過去を回顧することは、更によく現在を理解し、未来をきりひらくことなの

です。国の恥辱を忘れず、中華を振興することは、歴史の重い責任であり、革命に殉じた人々の遺志であり、私たちの責任なのです。今日、私たちが努力しなければならないことは、中華民族の偉大な復興のために勉強することなのです!」とし、周恩来の少年時代の体験と言葉「中華の振興のために勉強する」<sup>65</sup>(p.62 図Ⅱ-2-35)や梁啓超の散文「少年中国説」、李四光の「私は炎帝と黄帝の子孫(中国人)であり、当然のことながら、学んだすべての知識を我が親愛なる祖国のために捧げます。」という言葉(p.63)を載せている。北京:首師版5年下p.106<人民英雄記念碑の前で敬礼>も、「私たちは中国の独立富強のために献身した先輩烈士たちを永遠に胸に刻み、今日の素晴らしい生活を大切に、祖国の更に素晴らしい明日のために頑張って勉強しましょう!」とし、周恩来の言葉「中華の振興のために勉強する」を記す。上海:科技版5年第2学期p.93<理想を大きく持ち、倦まずたゆまず追い求める>は、<周恩来総理の小さい時の志>として、「中華の振興のために勉強する」の言葉とその物語を載せ、遼海版6年下p.72<理想の翼をつける>は、「周恩来総理は少年時代に『中華の振興のため



図Ⅱ-2-35 教科版5年下p.62



に勉強する』という遠大な志を立て、生涯にわたって努力した。」と記述する。広教版 6 年下 p.90<明日はもっと素晴らしい>も、周恩来の「中華の振興のために勉強する」の言葉を記載している。

周恩来は新中国建国以来、1976 年に死去するまで一貫して國務院総理（首相）を務め、1972 年に、日本の田中角栄首相（当時）と日中共同声明に調印し、教科書でも「平和の使者」として紹介されている。1917 年には日本へも留学している。

この周恩来の言葉にある「中華の振興」は、1894 年に孫中山（孫文）が初めて使ったスローガン<sup>66</sup>で、1980 年代の中国で最もポピュラーな政治スローガンとなり、その後、江沢民は「振興」に代わって「復興」という言葉を使い、新たなキャッチフレーズ「中華民族の偉大なる復興」を語るようになり<sup>67</sup>、胡錦濤は「中華民族の偉大なる復興」は共産党の歴史的使命であると言明し、政治報告で「改革と開放は中華民族復興の唯一の道」とし、「教育が民族復興の礎石」<sup>68</sup>としている。更に習近平国家主席は、2012 年 11 月 29 日、「復興の道」展を見学し、「中華民族の偉大な復興の実現という中国の夢」を打ち出し、各界の優れた青年代表との座談会において「中国の夢は、国家の夢であり、民族の夢であり、中国人一人ひとりの夢でもある。」<sup>69</sup>と語っている。

これは中国共産党執行部が、「二つの百年奮闘目標」を掲げ、「偉大なる復興」を実現する<sup>70</sup>ために、周恩来の言葉を引用し、子どもに「私は中国人」との自覚と責任を求め、国家と個人（子ども）を一体化したアイデンティティを涵養しようとしていると読み取れる。

### （3）反日だけではない平和へのメッセージ

教科版 5 年下 pp.52-53<南京大虐殺記念碑の前で>は、「日本による中国侵略戦争は、他にどのような重大な災難を中国人民にもたらしましたか？」と問い、「ある人は言います『過ぎ去ったことを、二度と持ち出すな』と。またある人は言います『私たちは民族の深い憎しみを代々記憶していかなければならない』と。あなたはご存知ですか？日本の子どもたちに手紙を書いて、あなたの考えを伝えてみましょう。」と促し、手紙の例として、以下の文を載せている。

親愛なる日本の友だちへ

皆さん、こんにちは。12 月 13 日、これは私が永久に忘れることのできない日です。あなたは知っていますか？68 年前の今日、私の 5 人の肉親が日本侵略者の屠殺用の刃物の下、惨めな死に方をしました。あなたはこのようなことがあったことを信じないかもしれませんが。なぜなら誰からも聞いていないからです。しかしながら、これは揺るぎない事実なのです。私の故郷の人たちは立証することができません。多くの平和を熱愛する国々の友人たちも証拠を示せます。当時侵略戦争に参加した一部の良知ある日本老兵も証人になります！

今日、中国人民は正々堂々と立ち上がりました。私たちは未来に向かっていきます、しかし、過去のことを絶対に忘れることはできません。悲劇を繰り返さないために、私たちは歴史の教訓を心に刻むのです。

私たちには平和が必要であり、尊厳が必要なのです！

私たちと一緒に、平和な素晴らしい未来を描きましょう！

南京の友人より 2005 年 12 月 13 日

江教版 5 年下 p96-97 図 II-2-22~23<私たちは平和を望む>は、「日本軍が中国で犯した犯罪行為展」を見終わった後に開いた討論会で、「もし私たちが日本を倒して仇を討ったら、私たちは中国を侵略した日本と同じ罪を犯すことにならないだろうか？」と問い、「たとえ私たちの国が強大になったとしても、私たちが侵略したことのある日本を含む他の国を攻撃することはできない。中国人は平和を熱愛している。しかし、やはり私たちは日本人にいくらかの教訓を与えるべきで、もし日本人が謝らず、靖国神社に参拝するなら、私たちは日本との交流を断絶し、日本製品をボイコットするべきである」という「意見に同意しますか？どうしてですか？」と重ねて問いかけ、最後に、「中国人は今日の平和で賑やかな地が、かつて日本侵略軍の殺戮の場であったことを忘れることはできない。私たちの心の中にはみな一つの願いがある、再び戦争が起こらないこと、再び恐怖を繰り返さないことだけを願っている。」と記述する。

これらは、2014 年 12 月 13 日に習近平国家主席が南

京大虐殺犠牲者国家追悼式典で語ったスピーチ<sup>71</sup>の内容と符合する。国家主席の発言と教科書記述が直線的に結ばれる点は、中国の道德教科書の特徴である。

次に、教科書の「平和」に関する内容を目次から見る。

各教科書は「平和」に関して主に 5、6 年の教科書で扱う。人教版 6 年上<第 4 単元 世界を漫遊する>、教科版 6 年上<第 5 単元 私たちは世界旅行に出かける>、江教版 6 年上<第 3 単元 外の世界はどうなっている>、山美版 6 年下<第 1 単元 子どもの目で世界を見る>、広教版 6 年上<第 2 単元 文明の足跡>、山美版 6 年上<第 2 単元 様々な世界>、遼海版 5 年下<第 2 単元 私たちは旅に出る>、北京：首師版 6 年上<第 3 単元 視野を広げて世界を見る>、上海：科技版 5 年第 1 学期<第 4 単元 文明が融け合う歩調>などの学習をとおして、「人類の文明遺産を理解し、世界の歴史や文化に興味を持ち、異なる民族や異なる文化の創造に対し、敬意をはらい」（「課程標準」「内容標準」の「世界に近づく」1、2、3 の指示）、人教版 6 年上<第 1 単元 文明へ向かって歩む>、北師版 6 年上<第 3 単元 急速に発展する中国>、教科版 5 年下<第 4 単元 科学技術は新生活を創造する><第 5 単元 商品から世界が見える>、広教版 6 年上<第 3 単元 手をつなぐ地球村>などの学習を通して「世界経済の発展と連係を感じ取り、科学技術と社会の発展の関係を理解し」（同 4、5）、人教版 6 年下<第 3 単元 人類の郷里>、北師版 6 年下<第 5 単元 地球は本当に美しい>広教版 6 年上<第 4 単元 地球を大切に使う>、遼海版 6 年下<第 2 単元 緑の地球を守る>、江教版 6 年下<第 1 単元 私たちは一つの地球村で生活している>、教科版 6 年下<第 4 単元 ただ一つの地球>、山美版 6 年下<第 2 単元 私たちはただ一つの地球をもつ>、北京：首師版 6 年下<第 3 単元 ただ一つの地球>、上海：科技版 5 年第 2 学期<第 1 単元 自然の恩恵、人類の智慧>などの学習を通して「世界共同の問題を理解し、人と自然、人と人が調和して共存することの重要性を理解し、国際組織の役割や自分たちの責任を感じとる」（同 6、8）内容になっている。

世界に目を向け、他の文化を理解しようと努力し、共に抱える問題に向き合っていく態度や知識・能力を培うことは「平和」を語る基礎になる。

さらに、人教版 6 年下<第 3 単元 同じ青空の下で>、北師版 6 年下<第 4 単元 永遠の願い>、教科版 6 年下<第 3 単元 平和の鳩を飛ばす>、広教版 6 年下<第 3 単元 私たちは平和を愛する>、江教版 6 年下<第 3 単元 世界にはまだ問題が多い>、遼海版 6 年上<第 2 単元 平和な世界を呼びかける>北京：首師版 6 年下<第 2 単元 私たちは平和を愛する>上海：科技版 5 年第 2 学期<第 2 単元 平和を維持し、協力を促進する>などの学習を通して「平和の素晴らしさと、戦争が人々にもたらす苦難を感じ取り、平和を愛する」（同 7）態度を養う内容である。

しかし、「課程標準」の「内容標準」に示された項目と各教科書の目次は、一対一の対応関係にはなっておらず、一つの内容項目を複数の単元を跨いで記述するなど、それぞれの教科書で工夫した構成になっている。

各教科書がどのように「平和」を語るかを、具体的に見る。

「中華民族は平和を熱愛する伝統的な美德を持っています。早くは春秋時代から、中国人は“和を以て貴しと為す”の思想を持っていました。現在に至るまで、我が国は“化干戈为玉帛（戦争を平和に変える）”歴史上の話が多く伝わっています。」（教科版 6 年下 p.52）、「私たちの国は、平和を愛する国家です。各国、或いは地域の間で起きる衝突を、平和的な手段で解決しよう主張してきました。戦争を制止し、世界平和を維持するために、中国も、できる限りの貢献を行なってきました。」（人教版 6 年下 p.54）、「戦争が、祖国の安全と世界平和を脅かすとき、善良な人々はまた武器をとり、正義の戦争によって不正義の戦争に反対します。」（山教版 5 年下 p.58）、「故郷が再び破壊されないように、肉親と再び離散することがないように、母親が再び息子を失うことがないように、妻が再び夫を失うことがないように、子どもが幸せな子ども時代を過ごせるように…私たちは戦争に反対し、平和を呼びかけます。」（北京：首師版 6 年下 p.45）、「我が国はこれまで、それぞれの国の独立自主を尊重し、永久平和と共同繁栄の調和した世界を建設するために努力してきました。2006 年 7 月までに、中国は世界の 169 か国と平等で友好的な外交関係を築いています。」（上海：科技版 5 年 2 学期 p.49）「私たちのこの愛する地球上で、私たちは平和が必要であり、友愛

が必要であり、安定した家が必要です。人類には一つの夢があります。いつの日か世界が安定し、戦争や貧困や飢餓がなくなり、幸せな生活は陽光に溢れ、平和な生花が至る所で花開くことです。」（江教版 6 年下 p.78）と記述し、中国は平和を追求しているという。

また、①「五十数年来、私たちの国は、絶え間なく国防建設を強化してきました。現在、進んだ装備、高度な技術を擁した近代化された陸・海・空軍部隊を所有し、世界平和を維持する重要な力となっています。」「私たちの国は、国際連合の平和維持活動に、積極的に参加しています。」（人教版 6 年下 p.55）、「20 年来、中国が派遣した平和維持部隊は前後して実地調査を行い、7300 キロ余りの道路や 200 余りの橋梁を修築し、28000 人以上の人々を診療し、治療し、230 例余りの手術を実施し、人員や物資を累計 348 万キロメートル以上にわたり輸送し、地雷などの各種不明爆発物 7500 余りを撤去し、世界平和のために貢献しました。」（北師版 6 年下 p.11）、「人民解放軍は祖国防衛の鋼鉄の長城（堅固な守り）であり、私たちの幸福な生活の重要な保障であり、また、世界の平和を維持する重要な力なのです。」（江教版 6 年下 p.86）と記し、人民解放軍は平和維持軍であると述べる。

②「中国人民は平和を熱愛しており、我々の核実験実施、核兵器開発は、完全に防衛のためである。核実験に成功したその日、我が国政府は『中国は如何なるとき、如何なる状況下においても、まず先に核兵器を使用することはない。核エネルギーの平和利用のために、中国は引き続き原子力発電所を建設していく』と声明を発表した。」（人教版 6 年上 p.70）と記し、科学技術を発展させ、それを平和的に利用し、人々に幸福をもたらしていると語る。

③国際連合や国際赤十字会などの国際組織の活動に参加し、「中国は世界平和を守るための重要な力となっています。中国は国際連合安全保障理事会の五つの常任理事国の一つで、否決権を持っているのです。」（広教版 6 年下 p.65）「2008 年 8 月 8 日、首都北京で第 29 回オリンピックが挙行されました。中国は“緑のオリンピック、科学技術のオリンピック、人文のオリンピック”の三大理念として世界に示し、」「各国人民のために友誼の懸け橋となり、中国人民が世界平和を希求する思いを表現し

ました。」（上海：科技版 5 年第 2 学期 p.75）と記し、これからも世界平和のために積極的な貢献をしていくと言う。

④世界各地で繰り広げる経済活動について、「世界各国はみな発展することが必要で、発展<sup>72</sup>がなければ希望はありません。」（北京：首師版 6 年下 p.43）「WTO への加入により、中国の大きな門は開かれ、経済領域において世界と更につながりを強くし、協力できるようになりました。」「今日、私たちはまるで一つの“地球村”で生活しているように、世界各地の商品が日増しに頻繁に行き来し、各国人民の交流も益々密接になっています。」（教科版 5 年下 pp.104・107）と記述し、中国は世界各国と経済協力関係を構築して世界平和に貢献しているとする。

⑤「私たちは同じ青空の下で生活し、呼吸し、運命を共にしています。私たちは、一つの地球村で生活しています。問題に直面したら、共に向き合わなければなりません。」（人教版 6 年下 p.62）「地球全体がまるで一つの村で、世界各国の人々はその村の村民のようです。みんながお互いに依存しあい、共同して一緒に生活しています。民族や国家、人種、肌の色の如何にかかわらず、私たちはみな“世界公民”なのです。」「私たちは、今日の祖国の花であるだけでなく、明日の社会の棟梁なのです。私たちは祖国を愛する青少年であるだけでなく、天下を心に留める世界公民でもあるのです。広く世界に触れ、文化交流を図り、互いに相互の認識や理解、学習を促進することは、世界公民になり、グローバルな社会に溶け込む第一歩なのです。」（広教版 6 年上 pp.71・74）と、世界全体を「地球村」と考え、これからも環境問題などに共に向きあい、世界の華人とともに、平和への貢献をしていくと謳う。

この「地球村」の表現は各教科書で使われている。以下に「地球村」の表現が見られる箇所を示す。

人教版 5 年下<第 3 単元 私たちが生活する地球> p.98、p.101、p.106。6 年下<第 3 単元 同じ青空の下で>p.57、p.59、p.62。

山教版 5 年下<第 3 単元 私たちが生活する地球> p.27、p.61、p.64。

教科版 5 年下<第 5 単元 商品から世界が見える> p.107。6 年下<第 3 単元 平和の鳩を飛ばす>p.62。



江教版 6 年下<第 1 単元 私たちは一つの地球村で生活している>pp.1-32。

広教版 6 年上<第 1 単元 美しい地球>p.16、p.48。

遼海版 6 年下<第 2 単元 緑の地球を守る>p.48。

北京：首師版 6 年上<視野を広げて世界を見る>pp.54-81。

上海：科技版 4 年第 2 学期<第 1 単元 美しい中華は私の家>p.4。5 年第 1 学期<第 4 単元 文明が融合合う>p.49。

上海市では「上海市小学品德と社会課程標準」の中でも「地球村の一員として」という表現を使っている。



図Ⅱ-2-36 広教版 6 年下 p.64

さらに、子どもたちに「私たちの責任として、平和のために何ができるか？」と問いかけ、自ら行動し、実践することを促している。

例えば、(1) 広教版 6 年下 p.64 図Ⅱ-2-36 と江教版 6 年下 pp.98-99 は、2002 年「国際連合持続可能な開発に関する世界首脳会議」で、発言を行った広東省深圳市実験小学校 4 年生の廖茗鈺の写真と言葉を掲載し、「茗鈺ちゃんの発言はどのような願望を表現していますか？もしあなたがこの会議に参加していたら、あなたはどの

ように話し、どのようにしたでしょうか？」（広教版 6 年下 p.64）、「あなたも廖茗鈺のように国際連合の演壇である問題について自分の意見や提案をしてみたいですか？クラス全体で“私は国連の小さな大使になる”の活動をし、みんながいつも関心を抱いている児童や教育、環境などの問題について、あなたの方の考えを発表してみましょう。」（江教版 6 年下 p.99）と、発言内容や背景を知識として理解するだけでなく、自分の生活と密接に関連した問題に結び付けて考え、話し合い、発表する活動を促す。「自分の経験や情感、能力、知識を豊かに」し「社会性発展を促進する総合課程」<sup>73</sup>としての工夫といえよう。

(2) 「平和のためにできること」として、北京：首師版 6 年下 pp.30-53<私たちは平和を愛する>は以下の内容を記載する。「あなたは、世界の多くの国と人々が、世界平和を維持するために、どのような努力や代償を払っているか知っていますか？」「世界平和のために私たちは何ができますか？」と問いかけ平和のために献身する衛兵>p.50-51 図Ⅱ-2-37 で「世界の平和を維持する正義の任務中に、多くの忠誠な戦士や軍事家、科学者、外交官が異国の地で犠牲になっています。中国が国連平和維持活動に参加した 20 年の中で、すでに多くの軍人が平和維持活動の中で殉職しています。彼らは“ブルーヘルメット”に栄光を添え、祖国に栄誉をもたらし、世界平和事業に貢献したのです。」とその功績を称え、「私たちは、彼らの精神や品性を学び、彼らの感動の物語を理解しましょう。」と促し、実際に平和維持軍の活動中に父親が犠牲になった中国北京第二中学の生徒である雷利が国連事務総長にあてた手紙<sup>74</sup>を掲載し、「父親を亡くした雷利兄さんに対して、あなたは何と言いますか？」と子どもたちに問い、討論を促す。これは、祖国中国の榮譽のため、世界平和という名目のもとに「最高の奉仕」<sup>75</sup>を求めていると読み取れる。



図 II-2-37 北京：首師版 6 年下 pp.50-51



図 II-2-38 人教版 6 年下 p.51



図 II-2-39 人教版 6 年下 p.54

さらに、人教版 6 年下は＜第 3 単元同じ青空の下で＞ pp.47-66 において、「高度科学技術戦争がもたらした結果」として、広島への原爆投下の写真や佐々木貞子さんの記事を書き（p.51 図 II-2-38）、「科学技術を戦争に用いたとき、人類に何をもたらすのでしょうか。」と問いかけ、科学技術の進歩は人類に幸福をもたらすだけではないことを示し、子どもたちに考えるように促し、＜中国

は世界に貢献している>として、中国からもう一つの被爆地長崎に贈られた「乙女の像」について語る。「私たちの政府は、日本へ白い大理石の彫像を贈りました。これは、長崎ないし日本中で、『最も美しい平和の女神』『駐日平和大使』として称えられています。」とし、「中国は、第二次世界大戦の主要被害国の一つであり、日本帝国主義侵略に抵抗した重要な戦場でもありました。私たちの国が日本へ贈ったこの彫像は、中国人民のどのような願いを表しているのでしょうか。この彫像をよく観察して、どのような意義を象徴しているのか話してみましよう。」と、「乙女の像」（平和少女記念像）の写真を示す（p.54 図Ⅱ-2-39）。同じ写真は、人教版 6 年下の他の 2 か所（6 年下目次、p.47）にも掲載されている。

日本の「一部の軍国主義勢力」<sup>76</sup>によって引き起こされた戦争で犠牲になったのは、中国人だけではなかった。「戦争は侵略された側を傷つけるだけではなく、侵略者となった側の人民にも、同様にあくなき戦争の苦しみを与え」（広教版 6 年下 p.52）た。「日本侵略者はアジア各国の人民に限りない苦難をもたらしただけでなく、本国人民も戦争の犠牲品にし」、「30 万以上の広島と長崎の民衆が原子爆弾の犠牲にな」った（上海：科技版 5 年第 2 学期 p.61）。中国は戦争によって苦しめられた人々を、恨みを越えて追悼し、日本に像を贈ることで「中国が世界平和を維持するために、倦まずたゆまず努力していること」（人教版 6 年下教師教学用書 p.94）を示すとともに、習近平国家主席がスピーチで語った「中日両国国民は子々孫々に至るまで友好関係を保ち、歴史を鏡とし、未来志向で、人類の平和のためにともに貢献していかなくてはならない。」というメッセージを、この像は象徴していることになろう。

「乙女の像」によって促された論議が、(3)反日だけではなく平和へのメッセージ、に示した、過去を忘れず平和を熱愛する中国人としての被害者意識を超えた度量を示すことが、同じ地球に生きる態度であるとの結論に至るのであれば、日本が嫌悪にとらわれることなく度量ある平和への態度を示そうとするのか、道徳の論議にのせていい。

このほか中国の各教科書は、「平和の使者」や「平和に貢献する人」として、ノーベル平和賞や地球市民賞（Global Citizen Award）受賞者などを紹介しており、

特に元国連事務総長で、2001 年にノーベル平和賞を受賞したコフィー・アナンについて、多くの教科書（人教版 6 年下 p.53、山教版 5 年下 p.55、教科版 6 年下 p.64、広教版 6 年下 p.59、江教版 6 年下 p.98）で取りあげる。しかし取り上げる人物は取捨選択されており、2010 年にノーベル平和賞を受賞した民主・人権活動家の劉曉波については全く触れていない。

中国の道徳教科書が提示する平和は、①中華民族が平和を熱愛する伝統的な美德を持っていること、②人民解放軍が世界の平和を維持する重要な力であること、③国際組織の活動に参加し各国人民の友誼の懸け橋となっていること、④世界各国と経済協力関係を構築して世界平和に貢献していること、⑤われわれが一つの地球村で生活する“世界公民”であること、を内容としている。

日本の道徳教育が平和を価値項目として取り上げず、日本の平和概念が戦争のない状態に帰着している状態からすると、中国の道徳教科書が提示する平和概念は豊かである。日本と中国の齟齬は、歴史認識だけではなく、平和についての考え方にもあることがわかる。互いに平和を希求するというならば、互いの対話のために、平和概念のすりあわせが必要となる。

習近平国家主席は、ドイツ・コルバート基金での演説<sup>77</sup>で、「中華民族は平和を愛する民族である。」としたうえで、「歴史は最も良い教師であり、それぞれの国が歩んできた足跡を忠実に記録し、それぞれの国の未来の発展のために啓示を提示してくれる。」とし、「1840 年のアヘン戦争から 1949 年の新中国成立までの百余年」の苦難と、「日本の軍国主義」が中国にもたらした惨劇に触れ、「この悲惨な歴史は中国人の骨身に刻み込まれた記憶」と語っている。そして、今後も「平和的発展の道を堅持し、世界の国々と共に世界平和を擁護し」「世界に対してさらに大きな貢献」をする、と述べている。中国共産党執行部にとって、「平和」は、執行部が描く歴史の鏡に映る戦争の記憶を通して語られる概念である。中国の教科書下に学ぶ子どもの平和意識は、屈辱としての戦争の記憶の形成、ならびにアイデンティティを、その歴史から中国を救い出して平和を築いた中国共産党へと統合する物語から外れない。



教科書は、中国にとって「子々孫々に至るまで友好関係を保ち、歴史を鏡とし、未来志向で、人類の平和のためにともに貢献していかななくてはならない」隣国「日本」を、どのように記述しているのだろうか。友好関係を保ち、平和な世界を構築していくための基盤として、相互理解は欠かせない。

各教科書が記述する“日本”を以下で見えていく。＜＞は教科書の見出しである。

まず、人教版は、6 年上＜第 4 単元 世界を漫遊する＞pp.83-110 で、日本について「日本人は花が好きで、その中でも桜がとても好きです。…」と写真入りで紹介する (p.86)。そして、日本家屋や和服、刺身の写真を掲載し、日本の文化・習俗を記述し、「日本にはほかにもどのような文化習俗があるのでしょうか？私たちの国と似ているところはありませんか？」と問い (p.87 図Ⅱ-2-40)、「古くから、我が国と周辺の近隣国家とは親しく付き合い、友好的に行き来し、行政や経済、文化など広汎な交流を進めてきました。」としたうえで、「唐の時代、鑑

真という有名な僧侶がいました。彼は日本人僧侶の招聘に応じ、日本にわたり教えを講じました。(中略)彼は仏教を伝播しただけではなく、中国の医薬や建築、文学、印刷、飲食なども紹介し、日本人に尊敬され重んじられました。彼は『日本文化の大恩人』と呼ばれています。」と鑑真を紹介する。さらに「日本からも幾度にもわたって我が国に使節を遣わし、我が国の文化を全面的に学び、日本文化の発展を推進しました。」と述べ、中国文化が日本文化の発展に如何に寄与したかを語っている (p.90)。中日の文字を比較し、日本のひらがなが漢字からできていることを示唆し (p.91)、「祝祭日の文化は伝播します。たとえば、日本の「月見」や韓国の「秋夕」は我が国の文化の影響を受けています。」(p.105)と記述する。さらに、日本の小学『社会』6 年下教科書の中の「中国」記述を掲載し、日本が中国をどのように教えているかにも注意を向けている (p.91)。

遼海版は、5 年上＜第 2 単元 中国で成長する＞pp.33-72 で、＜私たちのお隣さん＞である＜桜の国—日本＞と



図Ⅱ-2-40 人教版 6 年上 p.87



図Ⅱ-2-41 遼海版 5 年上 p.42



上段：図Ⅱ-2-42：遼海版5年下 pp.22-23



図Ⅱ-2-43：遼海版5年下 pp.24-25



して「日本は太平洋の中の島国で、我が国と海を隔てて向き合っており、昔から中国との関係がとても密接で、お互いに“一衣帯水の隣国”と呼んでいます。」と、その地理や文化・習俗、和服・文字・書道・茶道・華道・陶磁器・絹織物等々をあげ、「みんな古代中国の影響を受けたものです。」(p.42 図Ⅱ-2-41)と記す。そして、「日本と我が国には多くの共通した風俗習慣がありますね。私たちは一緒にその原因を探究してみましょう。」と促し、5年下<第1単元 私たちは中華文明の伝承者> pp1-28 の<東西文明の融合>で、遣唐使が「日本社会の発展を推進し、中日友好交流の促進に巨大な貢献」をしたとして語られ(pp.22-23 図Ⅱ-2-42)、鑑真が「中日文化の交流にも傑出した貢献」をしたとし、「彼の精神は中日人民の共同の精神的財産であり、中日人民の友好感情を結びつける絆となっています。」と結んでいる(pp.24-25 図Ⅱ-2-43)。

上海：科技版は、5年第1学期<第4単元 文明が融合合う歩調> pp.68-98 の<文明の融合>で、<文明を伝える使者>として、鑑真を「中日の文化交流、中でも仏教学の交流に重大な貢献」をしたと記述する(p.76)。また、5年2学期<第2単元平和を維持し、協力を促進する> pp.46-81 で、「中国は古より多くの隣国と密接な交流を行い、多くの友好交流の美談や文化の相互影響を残してきました。」とし、日本を「一衣帯水の隣国」として紹介する。「日本は古より中国と密接な交流」があり、「近代日本は明治維新を通して一躍アジアの強国になり、中国はかつて多くの留学生を日本に送り西洋社会の先進的な文化や科学に接した」とし、現在の「日本はアニメーション産業が発達」していることや、「日本の工業生産力と国民経済総生産」が高いことなどを紹介する。しかし、「日本の首相が靖国神社に参拝」し、「日本政府が日本の侵略の歴史を美化した右翼教科書を審査で通し」「中国人民の感情を深く傷つけ、中日関係の正常な発展を妨げた」と記す。「歴史上中日両国は相互に学び合い、それぞれの発展を促進してきました。このようなことは、とてもいいですね。私は中日両国が歴史を鑑として、代々にわたって友好関係を続けていくことを望みます。」という子どもの語りで結ぶ。また、侵華日軍南京大屠殺遭難同胞記念館前で、南京大屠殺殉難者追悼集会を挙げる日本の友好団体<sup>78</sup>の写真を掲載する。この



図Ⅱ-2-44 上海：科技版5年第1学期 p.52



図Ⅱ-2-45 上海：科技版5年第1学期 p.53



友好団体の写真は、江教版 5 年下 p.92 図Ⅱ-2-18 にも掲載されている。

山美版は、6 年上<第 2 単元 様々な世界>pp.31-54 で、日本の服飾文化として、「和服は日本の伝統的な服装で、それは中国の唐代の服装を基にして、長い年月を経て変化してきたものだ。和服の種類はとて多い。…」

(p.49) と、写真入りで紹介する。さらに 6 年下<第 1 単元 子どもの目で世界を見る>pp.1-30 で、<桜の国> pp.7-11 図Ⅱ-2-46~48 として、日本を 5 ページにわたって紹介する。その構成は、「私の研究」として、まず日本の概要を知った後、少年先鋒隊の「小隊」（筆者注：中国では、小学校全体が少年先鋒隊の一つの「大隊」であり、各クラスが「中隊」となり、さらにクラスのメンバーはいくつかの「小隊」にグループ化される。）で、「私たちの任務」として研究テーマを掲げ、資料を収集し、研究の成果を発表する形式をとっている。



図Ⅱ-2-46 山美版 6 年下 p.7



図Ⅱ-2-47 山美版 6 年下 pp.8-9



図Ⅱ-2-48 山美版6年下 pp.10-11

それぞれの小隊のテーマは、日本の「環境」、「資源と経済」、「生活と習俗」、「歴史と文化」である。「歴史と文化」では、古代日本人は自分が住んでいるところは太陽が昇るところであると考え、このことから自分の国家を日本と呼んだこと、日本の文明は中国文化を吸収し、その基礎の上に発展したこと、第二次世界大戦期間、日本帝国主義は我が国やその他の国に対して、野蛮な侵略を行い、これらの国の人々に深刻な災難をもたらしたこと、日本には、歴史の改ざんをもくろみ、侵略を粉飾しようとする少数の人々がいること、これらの誤ったやり方は、中国人民やアジアのその他の国々の人々の感情を深く傷つけ、世界の人々の強烈な反対に遭ったことを記述している。

この構成は、「品德と社会」課程の小目標である「社会の情報を収集し、整理し、分析し、…問題を探究し、説明する」<sup>79</sup>を意識している。

北京：首師版は、6年上＜第2单元 中国は世界に歩み出す＞pp.28-53の＜中国文化が世界に歩み出す＞で、一人の日本人を紹介している。「石山雄太は、日本の一般家庭の一人っ子です。17歳の時、単身で中国にやってきて、9年間自費で20万人民币近くを費やして中国京劇を学び、優秀な成績で中国京劇院の審査を経て、合同京劇俳優として採用されました。その間に流した汗と苦労は言葉で表現できません。彼は武丑役の特性により、舞台の最も輝かしい場所には立つことができず、彼は一生涯脇役で終わるかもしれません。しかし、後へは引けず、中国に留まり、プロの京劇俳優になりました。」とし、「石山雄太をこれほど京劇に夢中にさせ、並々ならぬ意志を以って、多くの留学生が諦めてしまうような学業を完遂させたものとは、いったい何だったのでしょうか？」(p.42)と問いかけ、討論を促している。北京市で使用されている教科書であり、身近な例として取り上

げたものであろう。中国の伝統文化が認められているとの印象を抱かせる教育用素材の扱いである。

教科書によって、“日本”の扱いの大きさは異なるが、その内容を整理すると、以下のようになる。①中国と日本は“一衣帯水”の隣国である。②中国と日本の交流の歴史の中で、鑑真や遣唐使が大きく貢献した。③日本の文化や習俗には、中国文化が大きく影響を及ぼしている。④日本は、現在世界の経済強国になった。⑤しかし、課題も多い。

⑤にあげられるのは、首相の靖国神社参拝や歴史教科書問題が中国人民の感情を傷つけているだけではない。

「日本は森林が多いですが、大量に木材を輸入し…」（山美版 6 年下 p.9 図Ⅱ-2-47）、「我が国の森林カバー率は日本の半分にも到りません。しかし、日本の使い捨て割り箸の多くが我が国から輸入したものです。日本は使用したのち回収し高級な紙を製造し、我が国に売り、輸入割り箸の原価を上回る利益を得ており、我が国はこれにより多くの森林を喪失しています。」（江蘇版 4 年下 p.32）と、中国の環境を傷つけているという。また、日本は島国で地震や台風などの自然災害が多い（北京：首師版 6 年上 p.62）ことなどがあげられている。

これらは「課程標準」の「内容標準」、「私は中国人」3ならびに「世界に近づく」2、3、4の指示を受けている。しかし、“日本”に関する記述に限って言えば、「異なる民族や異なる文化の創造に対し、尊重し敬意をはらう態度」の育成よりもむしろ「中華民族の世界文明に対する重大な貢献を感じ取り、民族の誇りと自信」を育成することに貢献する内容といえる。日本と中国が手を取り合うためには、道德教育を含めた教育全般を通して、互いを理解し、敬意を涵養する必要がある。

### Ⅲ 中国教科書の自由裁量の余地について

日本では、中国では教科書統制が強い印象がある。しかし、課程標準は上海市のものと全国に通用する国家教育部のものと複数認められ、北京市は、独自に教科書を編纂し使用している。さらに「課程標準」に、「教材編集は、課程標準に依拠したものでなければならない。課程標準の理念と要求を正確に完全に反映、理解したものでなければならない。しかし、内容標準の項目や順序と授業のスケジュールは一つ一つ対応した関係にあるもので

はない。」「異なる地域の特徴や学生の需要を考慮し、適当に相関内容を拡張し、その土地の生活に密着した素材を選択する。」「教材の中の授業活動設計ではできる限り各種の方法案を提供し、教師が学校や学生の実情に基づき選択できるようにすべきである。」<sup>80</sup>と記して、自由裁量を認める。

国家教育部と上海市の課程標準作成と教科書編纂にあたった沈曉敏は、「新しい教科の内容構成について十分な研究がなされていないため、課程基準<sup>81</sup>はかなり簡略なものになった。したがって、自由裁量の余地があり、扱いが弾力的となるため、教科書の編纂者と授業の実践者にとっては創意工夫の幅が広がった。」<sup>82</sup>と述べる。

収集した 10 種類の教科書を比較すると、「課程標準」の「内容標準」を盛り込みながら、自由裁量の余地を見ることができる。特に戦争に関しては、南京市で使用されている江教版の内容は質、量ともに豊富で、他の教科書にない記述や資料がみられる。また、主編、副主編が同一人物である<sup>83</sup> 遼海版と上海：科技版は、戦争の歴史を地理と絡めて都市の物語を軸に構成している。教科版や山美版は、戦争に関する文章記述は少なく、写真や絵が多く使われている。さらに、北京市が独自に編纂し、使用している北京：首師版には、＜不断に発展する世界＞という項目で、＜マルクスとエンゲルスの貢献＞（6 年下 pp.24-29）を取り上げる<sup>84</sup>。

5・4 制で唯一審査を経て教材目録に掲載されている山教版は、出版説明に「本書は、教育部審査を通過した人民教育出版社義務教育課程標準実験教科書を土台として、改編し作成したものです。本書は全日制義務教育課程標準の精神を極力全面的に徹底し、5・4 制の授業の実際に符合させました。」とあるが、内容は人教版とほぼ同じで、6 年間（12 冊）の内容を 5 年間（10 冊）にまとめるために、一部内容を省略したものとなっている。

教科書の採択は国の教育局から示された教材目録の中から省や市があらかじめ数種類に絞り、最終的な選択は学校に任せられる<sup>85</sup>。そして教育効果となると、教員がどう教えるかによって異なる。

中国では、「道德系教科の課程基準は、他の教科と同時に作成・発布するのではなく、共産党中央宣伝部（以下中宣部と略称）の審査を通過しないと発布してはいけないことになっている。今回の『品德と社会』の基準も



同じであった。その意味で、道徳系教科の改革から、中央政府と共産党中央の思想、つまり中国社会の主導的思想、イデオロギーの変化が察知することができる。」<sup>86</sup> 中国において中宣部は、「メディア管理を担当すると同時に、歴史をめぐる論争においても大きな役割を担い、「事実を隠蔽し、曖昧にし、真実の一部だけを伝え、事実を省略し、必要ならば完全な嘘をでっち上げる。…党が語るストーリー以外は抹殺され」<sup>87</sup> る。事実、2006 年には「氷点事件」<sup>88</sup> や「上海版歴史教科書事件」<sup>89</sup> が起きている。

分析した教科書<sup>90</sup>の中では、上海：科技版は、他の教科書に比べ、ナショナリズムを越えて、グローバルな視点に立った記述が見られた。しかし、上海の教科書も、国家の統制の枠を超えることができない<sup>91</sup>。

沈曉敏は、一方で「教科書は国家の意志を代表するものとされており、国家の政治思想を伝えざるをえない。我々の考えを十分に表すことには限界がある。」と述べるが、他方、道徳授業と子どもの課題への関わりについて、教科書の編者たちが教員研修に参画し、教員と授業を研究し理解し合う関係を築くこと、教員が教科書の限界を越えて子どもの実情に応じて創意的に実践するように励ます必要を指摘する<sup>92</sup>。教科書作成と教員の実践との関係、ならびに教科書を越えて子どもの課題に応えようとする姿勢として注目される。

#### IV 中国の道徳教育と教科書の今後

2001 年の教育課程改革に先立ち、江沢民国家主席は、1999 年 6 月 15 日、第 3 回全国教育活動会議における講演で、「教育は国民の資質向上を根本的な主旨としなければならない」と題し、「今日の世界においては、総合的国力の競争は経済力、国防力、民族の凝集力の競争として現れ」、「それらのどの面の実力を増強させるにしても教育が基礎」としている。さらに、「党の教育方針を全面的に貫徹して、教育が社会主義現代化建設に奉仕し、人民に奉仕するよう努めること」とし、教育を「優先的発展の戦略的重点に位置づけるべき」<sup>93</sup> と述べ、その中でも思想・モラル教育を重視してきた。

2003 年に国家主席となった胡錦濤も「教育は民族振興の礎石」とし、「党の教育方針を全面的に貫き、人間の育成を根本として徳育を最優先させることを堅持し、…

社会主義の建設者と後継者を育成」<sup>94</sup> するとして、教育、なかでも徳育の重要性を強調している。

党の教育方針は“三観”教育と言われ、マルクス主義世界観、人生観、価値観を統一した総体として行い、共産党員が世界を認識し、世界を変える思想の武器であり、人々を導き「中国の特色ある社会主義の共同理想と正確な世界観、人生観、価値観を樹立する」<sup>95</sup> ため改革開放以来重視されてきた。また、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論と「三つの代表」の思想も、党の方針として貫かれている<sup>96</sup>。

胡錦濤は 2007 年「社会主義の中核的価値体系を確立し、社会主義イデオロギーの吸引力と結束力を強める」として、「マルクス主義の中国化したざん新な成果をもって全党を武装し、国民を教育することをたゆむことなく堅持し、中国の特色のある社会主義の共通の理想をもって力を結集し、愛国主義を核心とする民族精神および改革・革新を中核とする時代精神をもって闘志を励起し、社会主義の榮辱観<sup>97</sup>をもって気風を導き、全党、全国各民族人民が団結奮闘してきた共通の思想的基盤を打ち固める必要」を説き、「中国の特色のある社会主義理論体系の宣伝・普及活動を展開し、現代中国のマルクス主義の大衆化を促」し、「イデオロギー面の活動を能動的におこない、差異を尊重し、多様性を受容する一方、いろいろの誤った思想や腐り果てた思想の影響を力強く食い止める。」<sup>98</sup> と強調する。

江沢民国家主席の指揮下で進められた教育改革で「義務教育課程標準（実験稿）」が作成され、地方出版社も参入して「義務教育課程標準実験教科書」が編纂され、出版された。その後、胡錦濤国家主席指揮のもとで、「国家中長期教育改革と発展計画綱要（2010－2020 年）」<sup>99</sup> が公布され、「課程標準（2011 年版）」<sup>100</sup> が作成され、現在習近平国家主席のもとで、新たな教科書の編集・改訂作業が行われている。2014 年 9 月からは道徳・国語・歴史を除くすべての教科書の改訂版が、審査を経て出版され使用されているが、道徳・国語・歴史の教科教材は、いまなお編集・改訂作業が続いている。2011 年版課程標準に基づくこれらの分野の教科書は、2015 年 9 月からの新年度に改訂版が間に合わず、現有の実験教科書を使用することになった<sup>101</sup>。

習近平国家主席は「すべての人はみな理想や追求すべ

き目標をもっており、みな自らの夢を抱いている」「中華民族の偉大な復興を実現することこそが、中華民族が近代以来抱き続けてきた最も偉大な夢である」と述べ、「中国の夢」を打ち出し、さらに「国際社会とともに恒久の平和、協同の繁栄という『世界の夢』の実現を促し、人類の平和と発展という崇高な事業に新たな、より大きな貢献をしなければならない。」「中国の夢は平和・発展・協力・ウィンウィンの夢である」<sup>102</sup>と語っている。しかし、「中国の特色ある社会主義の理論体系は、マルクス主義の中国化の最新の成果で」「マルクス・レーニン主義、毛沢東思想は絶対に捨ててはならない。それでは根っこを失うことになる。」とし「マルクス主義を堅持する」<sup>103</sup>ことを改めて語っており、中国は今後も“大徳育”ならびに“小徳育”の両方向から、中国化したマルクス主義（中国の特色ある社会主義）世界観・人生観・価値観<sup>104</sup>を中国国民に浸透させるのみならず、中国の揺るがぬ姿勢として世界に示していくと思われる<sup>105</sup>。

2008年12月にインターネット上に公表され、多くの支持者が署名した「08憲章」には、その結語に以下のような文章があり、「夢」を語っている。「中国は、世界の大国として、国連安全保障理事国の一つとして、また人権理事国のメンバーとして、人類の平和事業と人権の進歩のために自ら貢献すべきである。（中略）共に中国社会の偉大な変革を推進し、一日も早く自由・民主・憲政の国家を作り上げ、わが国の先人が百年あまりも粘り強く追い求めてきた夢を実現するよう希望する。」<sup>106</sup>

GDP世界第2位の経済大国となった中国の未来を担う子どもを導く道德教育の役割は大きいと中国自身が自覚しているように思える。すると同じく道德教育重視を打ち出した日本が、道德教育の分野においてアジア諸国とどのような対話をおこなうか、問われる。

## おわりに

価値項目を並べて教える形の日本の控えめな道德資料（教科書）に比べると、中国の道德分野の教科書は、1. 重厚である。その重厚さは、①地理・歴史・政治と結び付けて記述し、②“大徳育”の考え方にたつて、愛国主義教育、思想道德教育、行為規範教育を強化し、子どもたちの実践能力と創造能力を育成しようと、教科書の中に国家行事や共産党の下部組織である少年先鋒隊の儀

式や活動も盛り込まれ、③中国化したマルクス主義（中国の特色ある社会主義）世界観と人生観・価値観を包摂して道德教育がおこなわれるように構成されているところにある。2. 多様である。その多様さは、①上海市は、国家教育部とは別に独自に「課程標準」を作成しており、②北京市では、独自に編纂した教科書を使用し、③遼海版や上海：科技版には、他とは異なる構成の工夫が見られ、④それぞれの教科書で記述される情報の質と量が異なるところにある。3. 戦争と平和が語られている。最大の不道德である戦争を語ることによって、中国共産党の正当性が根拠づけられている。さらに中国の道德教育は、①中国共産党へと意識を統合しながら、中国共産党が腐敗や経済格差によって不評であるところから、②愛国心という形で子どもの道德意識を、住んでいる土地から中国へそして世界へと地理認識の拡大に沿って醸成し、③中華民族の称揚によって、多様な民族の統一を図り、④2012年11月に習近平国家主席が語った「中国の夢」を「私の夢」と重ねて国家と個人のアイデンティティを統合する教育装置となっている。また、中国は、平和を追求していると説明し、①人民解放軍は平和維持軍である、②中国は科学技術を発展させ、それを平和的に利用し、人々に幸福をもたらし、③国際連合などの国際組織に積極的に参与して、世界平和を希求しており、④経済関係によって世界平和に貢献し、⑤今後も環境問題への取り組みなど、世界全体を「地球村」と考えて、世界の華人とともに、平和への貢献をしていくと謳っている。

中国の道德教科書は、子どもが、歴史、地理、政治、道德の統合された構成を受け入れることによって、中国共産党の指導の正当性を受け入れることになる構造、個人のアイデンティティを国家へとつなぐ構造をもつ。

日本が平和国家として近隣諸国との関係を作っていくのであれば、中国の道德教育が「イデオロギー上の正しさの基準」<sup>107</sup>として、子どもの意識を醸成し、アイデンティティを形成している現状を理解し、齟齬の根を解きほぐす努力が必要だろう。平和について、上蘭恒太郎は「他者と助け合えること」と定義し、そこから出発して、共通の記憶を作り上げることを提案している<sup>108</sup>。他者と助けあうために、「他者」を理解する努力が、道德教育において大切である。人のあり方として、すなわち道德教育として、他者という鏡を通して、自己を顧み、異な

る記憶をすり合わせる対話を重ね、共有可能な歴史認識を構築することが、他者とともに平和な未来を得るために、必要である。教育によって平和を創ることができると思う。

(本稿は、科学研究費基盤C課題番号 26381276 による成果である。)

## 註

<sup>1</sup> 宮内庁「天皇陛下のご感想（新年に当たり）平成 27 年」

<http://www.kunaicho.go.jp/okotoba/01/gokanso/shinnen-h27.html> (2015/5/10 閲覧)。

<sup>2</sup> 首相官邸「安倍内閣総理大臣 平成 27 年 年頭所感」

[http://www.kantei.go.jp/jp/97\\_abe/statement/2015/0101nentou.html](http://www.kantei.go.jp/jp/97_abe/statement/2015/0101nentou.html) (2015/5/10 閲覧)。

<sup>3</sup> 人民網日本語版 (2015 年 1 月 6 日)「外交部、安倍首相の新年のあいさつについてコメント」

<http://j.people.com.cn/n/2015/0106/c94474-8832140.html> (2015/5/10 閲覧)。

<sup>4</sup> 中共中央文献研究室編 (2014)《十八大以来重要文献选编 (上)》中央文献出版社 pp.813-814

<sup>5</sup> 人民網日本語版 (2014 年 12 月 13 日)「習近平氏 南京大屠殺犠牲者の国家追悼式典で重要スピーチ」

<http://j.people.com.cn/n/2014/1213/c94474-8822501.html> (2015/5/10 閲覧)。

<sup>6</sup> 岡裕人 (2012)『忘却に抵抗するドイツ—歴史教育から「記憶の文化」へ』大月書店。

ドイツは長い歴史対話を経て、2006 年フランスとの間で 2 国間共通教科書『歴史—1945 年以後のヨーロッパと世界』を共同出版し、2010 年ポーランドとの間で共通歴史教科書ガイドラインを公表している (関連年表 VII—VIII)。

岡は、ドイツの歴史教育や過去の記憶との取り組みについて分析し、ドイツを中心に広がる「記憶の文化」について考察している。その中で、ゲオルク・エッカート国際教科書研究所がドイツ・ポーランド教科書対話で学んだこととして、「人と人がじかに対話し」「忍耐」をもって「和解と歩み寄りのスパイラル」を作り上げていくことが大切で、「国や体制が違

っても、人類はみな同じ血が通い、心が通じ合う人間だという実感」を持つことが、「普遍的に通用する対話の本質」だとし、これは「平和な関係を築くためにおこなうすべての対話に通じることである。」としている (p.110)。

<sup>7</sup> たとえば、2005 年 5 月、中国・韓国・日本、3 カ国の教師や歴史学者などの共同執筆により『日本・中国・韓国＝共同編集 未来をひらく歴史—東アジア 3 国の近現代史』(高文研)が出版された。さらに 2006 年 7 月にはその改訂版が出版され、2012 年には同じ日中韓 3 国共通歴史教材委員会によって『新しい東アジアの近現代史[上] 国際関係の変動で読む 未来をひらく歴史』(日本評論社)と『新しい東アジアの近現代史[下] テーマで読む人と交流 未来をひらく歴史』(日本評論社)も出版されている。また、2006 年には日中両国の歴史研究者、劉傑・楊大慶・三谷博等の編集により『国境を越える歴史認識—日中対話の試み』(東京大学出版会)も出版され、これらの本は全て中国国内で中国語版も出版されている。

さらに、日本と中国の間では、民間レベルでの歴史教科書対話にとどまらず、2005 年 4 月に日中外相会談で、町村外務大臣 (当時)が日中歴史共同研究を提案し、2006 年 12 月 26-27 日に北京で第 1 回全体会合が行われ、2010 年には報告書が発表されている。報告書は以下に掲載されている。

外務省「日中歴史共同研究 (概要)」

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/rekishi\\_kk.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/rekishi_kk.html) (2015/5/10 閲覧)。

<sup>8</sup> 文部科学省 (2008)『小学校学習指導要領解説総則編』東洋館出版社。

<sup>9</sup> 中华人民共和国教育部 (2001)《基础教育课程改革纲要 (试行)》

<教育部关于印发《基础教育课程 改革纲要(试行)》的通知>教基[2001]17 号。

[http://www.gov.cn/gongbao/content/2002/content\\_61386.htm](http://www.gov.cn/gongbao/content/2002/content_61386.htm) (2015/6/10 閲覧)

<sup>10</sup> 教育部基础教育司组织编写 (2002)《走进新课程—与课程实施者对话》北京师范大学出版社。

<sup>11</sup> 中华人民共和国教育部 (2002a)《全日制义务教育 品德与生活课程标准 (实验稿)》北京师范大学出版社。



- 12 中华人民共和国教育部（2002b）《全日制义务教育 品德与社会课程标准（实验稿）》 北京师范大学出版社。
- 13 中华人民共和国教育部（2002a）p.3 の図と中华人民共和国教育部（2002b）p.3 の図。
- 14 教育部基础教育课程教材专家工作组织编写（2012）《义务教育品德与社会课程标准（2011 年版）解读》高等教育出版社 p.5。
- 15 中华人民共和国教育部（2014）《2014 义务教育教学用书目录》ならびに〈教育部办公厅关于 2014 年中小学教学用书有关事项的通知〉教基二厅[2014]1 号。  
[http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/moe\\_714/201405/t20140530\\_169668.html](http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/moe_714/201405/t20140530_169668.html)（2015/5/10 閲覧）。国家教育委员会の指揮下にある全国中小学教材審定委員會の審査に合格した教科書が、この目録に掲載される。  
 中国の道德教科書を集めることは容易ではない。9 月から始まる学校教育に合わせて訪れても、書店にそろって出るわけではなく、学年がそろわずに半期分である。配布に必要な部数以上にすらないとの話で、遼海出版社の分は時期を見計らって本屋を巡った。江蘇教育出版社版の教科書は、南京師範大学との道德教科書交換によって入手した。また中国の小学校に出向いた際に交換で 1 セット頂くこともあった。教科書の著作者にお会いした際に手に入れたものもある。さらに、蒲池文恵が中国の大学にいたため、学生に頼んで入手してきてもらう、使った教科書をもらうなど工夫した。
- 16 上海市教育委员会（2004）《上海市小学品德与社会课程标准（试行稿）》上海教育出版社。上海市の「課程標準」では、1～5 年まで全て「品德と社会」に統一されている。
- 17 上海市教育委员会（2014）《2014 年秋季上海市小学教学用书目录》〈上海市教育委员会关于印发 2014 年秋季中小学教学用书目录的通知〉沪教委基[2014]11 号。  
<http://www.xhedu.sh.cn/cms/data/html/doc/2014-03/28/314543/index.html>（2015/5/10 閲覧）。
- 18 北京市教育委员会（2004）〈北京市教育委员会关于规范北京市普通中小学教学用书管理工作的通知〉京教基[2004]3 号。  
<http://www.bjedu.gov.cn/publish/portal0/tab67/info9364.htm>（2015/6/10 閲覧）。  
 北京市教育委员会（2011）〈北京市教育委员会关于印发北京市普通中小学地方教材编写审定管理办法的通知〉京教基二[2011]17 号。  
<http://www.bjedu.gov.cn/publish/portal0/tab67/info13037.htm>（2015/6/10 閲覧）。
- 19 北京市教育委员会（2015）《2015 年秋季北京市普通中小学自编及实验教学用书目录》。  
 〈北京市教育委员会关于印发 2015 年秋季北京市普通中小学教学用书目录的通知〉京教基二[2015]9 号。  
<http://www.bjedu.gov.cn/publish/portal27/tab1654/info38632.htm>（2015/6/10 閲覧）。
- 20 上海市教育委员会（2004）〈上海市教育委员会关于本市义务教育阶段实行五四学制的通知〉沪教委基[2004]50 号。  
<http://www.shmec.gov.cn/attach/xxgk/716.doc>（2015/5/10 閲覧）。
- 21 沈晓敏（2005）「中国の道德・社会科の再編成における『公民意識』『公共意識』の形成—『品德と社会』教科書（上海）を中心に—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第 45 巻、pp.257-266。
- 22 倪冬岩（2007）「中国における道德教育の動態」『現代社会文化研究』№38、pp.115-132。
- 23 許芳（2007）「1990 年代から中国における社会科教科書づくりとその展望—授業づくりの観点から—」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』別冊 15 号-1、pp.161-171。
- 24 蔡秋英（2007）「中国における初等教科「品德と社会」の内容構成原理—「公民意識」の育成を中心に—」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部 第 56 号、pp.75-82。
- 25 莫宇緋（2009）「中国と日本における愛国心教育の比較研究」<http://hdl.handle.net/10129/1842>（2015/5/10 閲覧）。
- 26 賽漢花（2001）「中国の初等教科「品德と社会」に見る公民性教育（1） - 5 年生単元「私たちの民主生活」の分析を中心に—」『滋賀大学大学院教育学研究科論文集』第 14 号、pp.83-91。
- 27 山田美香（2012）「中国における道德教育と社会科の合科」『名古屋市立大学大学院人間文化研究科 人間文化研究』第 17 号、pp.99-110。
- 28 武小燕（2013）『改革開放後中国の愛国主義教育 社

会の近代化と徳育の機能をめぐって』大学教育出版。

- <sup>29</sup> Kamizono Kohtaro (2008) *Reticence towards Moral Lessons in Japanese Schools -Moral education at a crossroad-* 『長崎大学教育学部紀要－教育科学－』第72号、pp.1-12。

- <sup>30</sup> 基础教育教学研究课题组编（2015）《小学品德与生活（社会）教学指导》高等教育出版社 p.6。

- <sup>31</sup> 中华人民共和国教育部（2002b）pp.18-23。

- <sup>32</sup> 檀传宝 等（2012）《走向德育专业化:学校德育 100 問》华东师范大学出版社 pp.3-4。

- <sup>33</sup> 中国共产党中央委员会（1994）《爱国主义教育实施纲要》

<http://www.03964.com/read/9efafe7182a968bb0fd96972.html>（2015/7/4 閲覧）。

国家教育委员会（1994）〈国家教委关于贯彻《爱国主义教育实施纲要》的通知〉教政[1994]4号。

<http://www.chinalawedu.com/news/1200/22598/22615/22800/2006/3/ma01648263121360024480-0.htm>（2015/7/4 閲覧）。

- <sup>34</sup> 習近平（2014a）『改革の全面的深化について』（中共中央文献研究室編）（中共中央編訳局訳）外文出版社 p.146。

習近平は「第十八期中央政治局第十三回グループ学習会における談話」（2014年2月24日）で、「儀礼は、価値観を宣揚して人々を強化するうえでの有効な方式である。」とし、一連の儀礼制度を構築して規範化し、重要な記念日、民族の伝統的な節句などの機会を利用してさまざまな形の記念・祝賀行事を準備・開催し主流の価値基準を広めて、人々の民族的アイデンティティと帰属意識を強化しなければならないと言う。

- <sup>35</sup> 中国少年先锋队 <http://61.gqt.org.cn/>（2015/4/26 閲覧）。

中国少年先鋒隊は、中国共産党により創立され、党の委託を受け、中国共産主義青年団が直接指導する中国少年児童組織である。少年児童が中国の特色ある社会主義と共産主義を学び、建設するための予備隊である。隊の目的は、少年児童を集団で教育し、祖国を愛し、人民を愛し、労働を愛し、科学を愛し、公共財産を大切にし、努力して学習し、身体を鍛え、実践に参加し、能力を培い、中国の特色ある社会主義現代化強

国の建設に貢献できる力となるよう志を立てさせ、社会主義現代化建設のために必要な合格した人材となるよう努力し成長させ、共産主義事業の継承者にするとともに、少年児童の正当な権利を保護することである。中国少年先鋒隊は、6歳から14歳の少年児童が、自ら参加を望み、学校の少年先鋒隊組織に申請書を提出し、批准を受けて隊員となる形をとる。隊旗は五角星とトーチが描かれた紅旗で、五角星は中国共産党の指導者を表し、トーチは光を、そして紅旗は革命の勝利を象徴している。隊歌は《我们是共产主义接班人（私たちは共産主義の継承者）》。隊礼は、右手の指を揃えて頭より高く掲げる。これは“人民の利益は何よりも高い”ことを表している（中国少年先鋒隊規約：中国少年先鋒隊第5回全国代表大会を2005年6月3日に通過したもの）。

中国少年先鋒隊の前身は1949年10月13日に成立した中国少年児童隊である。しかし、中国少年児童革命組織は、労働童子団に始まり、大きく5つの段階を経てきた。1924年から1927年までの北伐戦争時期の労働童子軍、1927年から1936年までの土地革命戦争時期の共産主義児童団、1937年から1945年までの抗日戦争時期の抗日児童団、1946年から1949年に創設された少年先鋒隊、そして1949年に新中国が成立し、全国統一組織の中国少年児童隊が創設され、1953年に中国少年先鋒隊に改名された（少先隊隊史）。

中国少年先鋒隊は略して「少先隊」とも呼ばれる。

- <sup>36</sup> 中华人民共和国教育部（2002a）p.6。

- <sup>37</sup> 前掲書、p.9。

- <sup>38</sup> 前掲書、p.1。

- <sup>39</sup> 1949年10月1日、北京天安門において、毛沢東が中華人民共和国中央人民政府の成立を宣言した儀式。以後毎年10月1日は国慶節（建国記念日）として、盛大な祝賀行事が行われる。

「中華人民共和国中央人民政府の成立式典が1949年10月1日、盛大に行われた。午後2時55分、中央人民政府の毛沢東主席は、朱徳、劉少奇、宋慶齡、李濟深、張瀾、高崗の各副主席および各委員とともに天安門の城楼に上がり、宣言した。「中華人民共和国の中央人民政府は本日成立した!」。毛主席がボタンを押すと五星紅旗はゆっくりと昇り、54門の礼砲が28

回、一斉に鳴り響いた。54 という数字は中国人民政治協商会議の第 1 期全体会議に参加する 54 の民族を象徴し、28 は中国共産党が人民を率いて勇敢に戦った 28 年を意味している。建国大典では中華人民共和国の誕生が宣言された。ここに、中国共産党のもと、世界人口の 4 分の 1 を占める中国人民が立ち上がったのだった。」

中国共産党ニュース

[http://jpn\\_cpc.people.com.cn/70124/index.html](http://jpn_cpc.people.com.cn/70124/index.html)

(2015/5/10 閲覧)。

- 40 中华人民共和国教育部（2004）《小学生日常行为规范（修订）》

教育部关于发布《中小学生守则》、《小学生日常行为规范（修订）》和《中学生日常行为规范（修订）》的通知、教基[2004]6 号。

[http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe\\_4/201001/81948.html](http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_4/201001/81948.html) (2015/6/10 閲覧)。

国家教育部が定めた『小学生日常行為規範』第 1 条に、「国旗、国章に敬意を払い、国歌を歌うことができる。国旗掲揚時や国歌斉唱時には、かしこまって起立し、脱帽して目礼し、少年先鋒隊の隊礼を行う。」と規定されている。

- 41 習近平（2014b）『習近平 国政運営を語る』（日本翻訳組訳）外文出版社 pp.174-175。

習近平国家主席は、2013 年に第 4 回全国道德模範・模範候補者と面会した際の談話「中国の夢の実現に向けて大きな精神的力としっかりしたモラルの基盤を築き上げる」（2013 年 8 月 26 日）で、「道德模範は社会道德構築の重要な旗印である。」と語り、模範を称揚し、模範に学ぶことの重要性を強調している。

- 42 中国少年先鋒隊 <http://61.gqt.org.cn/> (2015/4/26 閲覧)。

紅領巾は中国少年先鋒隊員の印で、紅旗の一角を表し、革命に殉じた人々の鮮血によって染められたものであり、各隊員は、それを身に着け、大切にし、新たな栄誉を添えるよう努めなければならない（中国少年先鋒隊規約）。

- 43 習近平（2014b）pp.199-205。

- 44 人民网（2015 年 7 月 7 日）〈纪念抗战胜利 70 周年 广电总局确定抗战动画片三部曲〉

<http://culture.people.com.cn/n/2015/0707/c22219-27264263.html> (2015/7/13 閲覧)。

これらの映画は制作年がかなり古く、画像も内容も古さが感じられる。そのため抗日戦争勝利 70 周年を迎える 2015 年、子どもにより身近に感じられるよう一部はアニメーションとしてリニューアルされ、多くの学校などで 8 月から放映される。

- 45 本书编写组编（2009）《新时期爱国主义教育读本》中共党史出版社。

- 46 中华人民共和国教育部（2002b）p.1。

- 47 前掲書、p.1。

- 48 ここでは、中国が舞台になった「戦争」を取り上げる。

- 49 孫中山（孫文）を指す。教科書では、辛亥革命によって、君主專制制度を終わらせ、中華民國の臨時大總統になった偉大な指導者として描かれている（広教版 5 年上 pp.46-49 等）。

- 50 中国共産党第一回全国大会がおこなわれた場所。教科書では、中国共産党の光り輝く歴史は、この小舟から始まったと記述されている（広教版 5 年上 p.50 等）。

第 1 回全国代表大会

時間：1921 年 7 月 23-31 日

場所：上海の会議の最終日は浙江省嘉興県南湖の遊覧船の上に席を移してつづけられた

代表総数：12 人

当時の黨員総数：50 余人

大会の主要な内容：大会の中心議題は中国共産党の正式な創立である。大会で採択された中国共産党初の綱領により党名は「中国共産党」に決定した。党の奮闘目標は「プロレタリア階級と革命軍隊によってブルジョア階級を打倒し、勤労階級によって国家を再建し、階級差別を消滅させる。プロレタリアート独裁を採用し、階級闘争の目的--階級の消滅を達成する。私有財産制を廃止し、すべての生産手段を没収して社会所有とする。大会は『当面の實際活動における決議』を採択し、党成立後の中心任務は、労働者階級を組織し、労働者運動を指導することに決定した。

大会は陳独秀、張国タオ、李達からなる中央局を選出し、陳独秀を中央局書記と決定した。

中国共産党ニュース

[http://jpn\\_cpc.people.com.cn/69714/4726214.html](http://jpn_cpc.people.com.cn/69714/4726214.html)



(2015/6/27 閲覧)。

<sup>51</sup> 2014 年 10 月、著者である楊彪氏の話では、中国文明の各年代の首都である都市の物語（地理認識）と時代の流れ（歴史認識）を結び付ける体系的記述は、特に工夫したところであると言う。地理と歴史を統合した提示は、子どもの世界観形成に有効であろう。逆に提示した世界観から抜け出すには、地理認識と歴史認識を批判しなければならない。

<sup>52</sup> 遼寧省瀋陽市にあり、主に国の審査を経た教材や地方課程教材を出版している。

<sup>53</sup> 《七つの子の歌（七子之歌）》は、「国語（語文）」（北京師範大学出版社版 4 年下 pp.102-103、江蘇教育出版社版 7 年下 pp.197-202）や「音楽」（人民音楽出版社版 7 年上）の教科書にも記載されている。

<sup>54</sup> 余光中の詩「郷愁」は、「国語（語文）」の教科書（語文出版社版 7 年下 pp.104-106、人民教育出版社版 9 年下 pp.4-5）にも記載されている。

<sup>55</sup> 習近平（2014b）pp.268-269。

<sup>56</sup> この詩《松花江のほとり（松花江上）》（張寒暉作）は「国語（語文）」の教科書（人民教育出版社版 7 年下 p.66）にも記載されている。

<sup>57</sup> 曹火星が 1943 年に作曲した共産党を称える革命歌のタイトルでもある。「中国共产党新闻」《没有共产党就没有新中国》

<http://cpc.people.com.cn/GB/64150/64154/4509330.html> (2015/5/10 閲覧)。

<sup>58</sup> 松岡環編著（2003）『南京戦—切りさかれた受難者の魂 被害者 120 人の証言』社会評論社 pp.219-222 の「戎秀英」の証言と符合している。

<sup>59</sup> 東史郎（2001）『東史郎日記』熊本出版文化会館。

江教版、北師版、教科版には裁判でも争われた 1937 年 12 月 21 日の日記（原著 p.214）の文章が載せられている。裁判については、東史郎さんの南京裁判を支える会編（2001）『加害と赦し—南京大虐殺と東史郎裁判』（現代書館）に詳しい記述がある。

『東史郎日記』の中国語版は、1999 年に江蘇教育出版社から出版されている。

<sup>60</sup> 中国共产党新闻「1939 年 12 月 21 日 毛泽东撰写《纪念白求恩》」

<http://cpc.people.com.cn/GB/64162/64165/74856/7500>

5/5157854.html (2015/7/5 閲覧)。

ノーマン・ベチューン（Henry Norman Bethune、白求恩、1890 年 3 月 4 日 - 1939 年 11 月 12 日）はカナダ共産党員で著名な外科医。中国の抗日戦争を助けるために、1938 年に中国に派遣され、3 月延安に渡って医療活動に従事した。

<sup>61</sup> 各小学校が少年先鋒隊の一つの「大隊」であり、専任の「少年先鋒隊指導員」が配属されている。各クラスは少年先鋒隊の「中隊」でもあり、クラスの中に 4～5 の「小隊」がある。少年先鋒隊の活動組織と学校の活動組織が一体の関係である。

<sup>62</sup> 董立河編著（2015）『社会主义核心价值观・关键词 爱国』中国人民大学出版社 p.113。

愛国主義教育示範基地は、中国共産党宣伝部によって、1997 年、2001 年、2005 年、2009 年の 4 回にわたって公布され、全国に 356 か所ある。重大歴史事件の遺跡や記念館・烈士陵园、革命指導者や愛国人士の旧居・旧跡、重要歴史文化を反映した博物館や記念館、新中国建国以来の成果を示す展覧館が選ばれている。

<sup>63</sup> 前掲、人民網日本語版（2015 年 1 月 6 日）「外交部、安倍首相の新年のあいさつについてコメント」

<http://j.people.com.cn/n/2015/0106/c94474-8832140.html> (2015/5/10 閲覧)。

<sup>64</sup> 江沢民（2012）『江沢民文選第二巻』（中共中央マルクス・エンゲルス・レーニン・スターリン著作翻訳編集局訳）外文出版社 pp.88-96。

<sup>65</sup> 周恩来の「中華の振興のために勉強する」は、「国語（語文）」人民教育出版社版（4 年上 pp.121-125）にも同じタイトルで文章が記載されている。それによると、原文の作者は陳詒とある。

<sup>66</sup> 中國共産黨新聞（2006 年 6 月 26 日）「鄭大華：孫中山“振興中華”口號的提出」

<http://theory.people.com.cn/BIG5/49157/49163/4528764.html> (2015/6/30 閲覧)。

<sup>67</sup> ワン・ジョン（2014）『中国の歴史認識はどう作られたのか』（伊藤真訳）東洋経済新報社 p.188。

<sup>68</sup> 胡錦濤（2007）『中国共产党第十七次全国代表大会における報告』p.29。

<http://book.theorychina.org/upload/7c070cca-361d-47c2-837e->

f96ae54b0ff4/flipviewerxpress.html?pn=43

(2015/5/10 閲覧)。

- <sup>69</sup> 習近平 (2014c) 『中華民族の偉大な復興を目指す中国の夢』 (中共中央文献研究室編) (中共中央マルクス・エンゲルス・レーニン・スターリン著作翻訳編集局訳) 外文出版社 p.24。

- <sup>70</sup> 習近平 (2014b) 「中華民族の偉大な復興の実現」 (2012 年 11 月 29 日) p.36。

「中国共産党創立百周年を迎えるまでの小康 (引用者註: ややゆとりのある) 社会を全面的に築き上げるという目標と、新中国成立百周年を迎えるまでに富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築き上げるという目標を必ず達成することができ、中華民族の偉大な復興という夢は必ず実現できるということを、私は固く信じている。」

- <sup>71</sup> 前掲、人民網日本語版 (2014 年 12 月 13 日) 「習近平氏 南京大虐殺犠牲者の国家追悼式典で重要スピーチ」 <http://j.people.com.cn/n/2014/1213/c94474-8822501.html> (2015/5/10 閲覧)。

- <sup>72</sup> 人民網日本語版 (2012 年 10 月 29 日) <http://j.people.com.cn/94474/7995348.html>

(2015/7/13 閲覧)。胡錦濤は、「発展はあらゆる問題を解決する鍵」とし、科学的発展、調和的発展、平和的発展の実現に努力することを打ち出している。

- <sup>73</sup> 中华人民共和国教育部 (2002b) p.1。

- <sup>74</sup> この手紙は、〈一人の中国の子どもの呼びかけ〉との見出しで、「国語 (語文)」の教科書、人民教育出版社版 [以下、人教版] (4 年下 pp.70-72) にも掲載される。同様に「品德と生活」・「品德と社会」の教科書に掲載される戦争と平和に関する記述と符合する内容の文章が、「国語 (語文)」の教科書にみられる。以下に人教版「国語 (語文)」教科書 (1~6 年) の掲載例をあげる。〈〉は教科書の見出しである。抗日児童団員として活躍した小さな英雄の話〈王二小〉 (1 年下 pp.99-101)、ノーマン・ベチューンの物語〈手術台はまさに陣地〉 (3 年下 pp.157-158)、周恩来の少年時代の話〈中華の振興のために勉強する〉 (4 年上 pp.121-125)、戦争中の子どもたちの話《第四組》〈小さな英雄雨来〉ほか (4 年下 pp.53-80)、中華民族屈辱の歴史《第七組》〈円明園の焼失〉ほか (5 年

上 pp.114-134)、中華民族の偉大な指導者《第八組》〈開国大典〉ほか (5 年上 pp.135-155)、感動の物語《第四組》〈さようなら、肉親〉ほか (5 年下 pp.67-81)、祖国の英雄、銭学森の話〈祖国、私は終に帰ってきました!〉 (6 年上 pp.154-155)、革命の先烈を偲ぶ《第三組》〈人民のために奉仕する〉ほか (6 年下 pp.45-65)。

日本では、読み物資料を利用する心理主義化した「道徳授業が国語の授業と変わらないと批判され」 (貝塚茂樹 (2012) 『道徳教科書の取り扱い説明書—教科化の必要性を考える』 学術出版会 p.56)、道徳的に「正しい」心の動き以外は「まちがいの」だとされる「国語は道徳だ」 (石原千秋 (2005) 『国語教科書の思想』 ちくま新書 p.28) と批判される。双方の相違や関連性などが議論・研究されている (日向正志「読み物資料を用いた道徳の授業と国語科による文学教育との関連性に関する研究」ほか)。

中国の「義務教育国語 (語文) 課程標準 (2011 年版)」には、課程目標として、「1、国語の学習を通して、愛国主義・集団主義・社会主義思想道德と健康的な審美・情趣を培い、個性を發展させ、協力し創造する精神を養い、人生に対する積極的態度や正確な世界観・価値観を形成する。」と謳われている (中华人民共和国教育部 (2012c) 《义务教育语文课程标准 (2011 年版)》 北京师范大学出版社 p.6)。

- <sup>75</sup> 清水幾太郎 (2013) 『愛国心』 ちくま学芸文庫 pp.40-46。

- <sup>76</sup> 服部龍二 (2015) 『外交ドキュメント 歴史認識』 岩波新書 p.63。

- <sup>77</sup> 習近平 (2014b) 「平和的発展の道を歩むことは中国人民自らの発展目標の実現に対する自信と自覚の表れ」 (2014 年 3 月 28 日) pp.292-296。

- <sup>78</sup> 友好団体は「銘心会南京」友好訪中団 (団長: 松岡環)、「日中友好・希望の翼」及び岡まさはる記念長崎平和資料館友好訪中団で組成されている。

「銘心会南京」の松岡環氏は、長年にわたり抗日戦争 (日本では日中戦争) 時における日本軍の加害と中国の被害について調査し、本やドキュメンタリー映画にまとめている。

2014 年 12 月、南京大虐殺犠牲者追悼記念として中

国中央電視台（CCTV）と江蘇ラジオ・テレビ放送局との共同で『1937 南京記憶』と題する大型ドキュメンタリー映画（52 分×5）が作成され、中国語のほか、英語・フランス語・ロシア語・スペイン語・アラビア語で世界に向けて発信された。この映画は『南京大虐殺にかかわる 6 人』をナビゲーターにして世界的にこの南京大虐殺を広い角度からとらえて制作された。この 6 人の中でただ一人の日本人として『南京大虐殺日本兵と被害者調査』の松岡環氏が紹介された。他の 5 人は以下の通りである。『レイプオブ南京』の著作者アイリスチャン、『ツインタワー』『南京』監督のビル・グッテンタグ、南京大虐殺記念館長の朱成山、『靖国』監督李璦、『日中韓教科書』の歩平。

<sup>79</sup> 中華人民共和国教育部（2002b）p.6。

<sup>80</sup> 中華人民共和国教育部（2002b）pp.22-23。

<sup>81</sup> 沈曉敏（2005）と武小燕（2013）は「課程標準」を「課程基準」と日本語に訳すが、本論では、そのまま日本語の常用漢字に直し「課程標準」とした。

<sup>82</sup> 沈曉敏（2005）p.261。

<sup>83</sup> 主編：鐘啓泉（華東師範大学課程教学・比較教育研究所所長）、副主編：沈曉敏（華東師範大学課程教学・比較教育研究所副教授）（教科書編纂当時）。

<sup>84</sup> 2002 年発行の「課程標準」には、マルクス主義の文言は見られないが、北京：首師版には教科書の中に 6 ページにわたる記述が見られる。

<sup>85</sup> 武小燕（2013）p.136。

<sup>86</sup> 沈曉敏（2005）p.261。

<sup>87</sup> リチャード・マグレガー（2011）『中国共産党』（小谷まさ代訳）草思社 pp.355-365。

<sup>88</sup> 「氷点事件」は、2006 年 1 月、中山大学教授袁偉時の論文「現代化と歴史教科書」を載せた中国青年報付属紙『氷点週刊』が、中国当局によって突然停刊させられたものである。その後免職となった編集主幹の李大同は、自らが教科書を重視してきた理由として、「中国の教育に深刻な問題が存在しているからだ。」とし、「その核心の一つが政治・文化・歴史分野の教科書の陳腐化と意識の形式化である。」と述べている（李大同（2006）『《氷点》停刊の舞台裏－問われる中国の言論の自由』（三瀆正道監訳）日本僑報社 p.9）。袁偉時はその論文で「現在の歴史教科書が思想に導か

れている」ことを指摘し、歴史問題を学術分野に戻すよう訴え「理性と法治の観念を持つ近代的な公民を育成し近代化事業に利するために、今こそこの誤謬を修正する時である。」と記している（袁偉時（2006）『中国の歴史教科書問題－《氷点》事件の記録と反省』（武吉次朗訳）日本僑報社 p.76）。

<sup>89</sup> 「上海版歴史教科書事件」では、2007 年 9 月から使用される予定だった上海の改訂版高校歴史教科書が、急遽使用中止となり、改訂版の編集者たちが解任されたり、辞任したりした。「改訂版は日中戦争の記述が減り、『人權』、『三権分立』などについて手厚く説明していて、これを進歩的とする評価と、イデオロギー軽視だなどの批判も出ていた」（佐藤公彦（2008）『上海版歴史教科書の「扼殺」－中国のイデオロギー的言論統制・抑圧』（日本僑報社 p.11）。佐藤は、共産党権力による言論統制・抑圧について考察し「上海版歴史教科書の『扼殺』や、言論封殺の『氷点』事件などに見られる、共産党イデオロギー的中国側歴史認識と、日本側の歴史認識、われわれの最大公約数的な歴史認識は多くの共通領域、接点を持たないのではないかと思う。…中国の歴史教科書は、共産党イデオロギーによって、執政党の国家意識を体現するものとして厳しく統制されているのであって、日本の歴史教科書などよりもはるかに強い国家統制下、共産党イデオロギーの統制下にあることが明らかになった。」（p.134）と記している。

<sup>90</sup> 本論では、小学校で使用されている教科書について論じたが、『普通高校課程標準実験教科書歴史 1（必修）（人民教育出版社）』には、第 16 課で抗日戦争 pp.75-77 が記述される。その中の、p.76<学思之窓>には、「日本人侵略者にも家庭があり、妻や子どももいた。家族と一緒に時には和やかそのものだった。しかし、彼らは中国に侵入して後、何の武器も持っていない中国平民を残忍極まりない、人間性を喪失したやり方で殺戮した。」と、残虐行為が記述され、さらに<中国に侵入する前に家族と一緒にいる日本軍人>と<日本軍が中国人を殺戮した後の凶悪な姿>の 2 枚の写真を並べ、「何が日本人侵略者の人間性を、非人間的獣性に変えたのか？」と問い、生徒に思考を求めている。中国の歴史教科書について日本の一部に、日本



軍による残虐行為だけを列挙し、反日感情をあおっているとの偏見があるとすれば、これは特筆に値する。互いの教科書を知ることが大切だと考える。

<sup>91</sup> 2015 年 6 月、教科書「品德と生活」「品德と社会」の改訂作業が行われているが、上海：科技版では改訂に際し、孫中山・毛沢東・鄧小平の記述を加えるようにとの指示があり、記述が加えられた、とのことである。

<sup>92</sup> 沈曉敏 (2005) p.265。

<sup>93</sup> 江沢民 (2012) pp.362-372。

<sup>94</sup> 胡錦濤 (2007) p.29。

<sup>95</sup> 江泽民 (1996) 《中国共产党第十四届中央委员会第六次全体会议公报》pp.4-5。

<http://book.theorychina.org/upload/4e224ce8-72ed-4719-819d-586993d5bb4a/> (2015/6/10 閲覧)。

<sup>96</sup> 中国共产党中央委员会 (2001) 《公民道德建设实施纲要》〈中共中央关于印发《公民道德建设实施纲要》的通知〉中发[2001]15 号。

[http://www.gov.cn/gongbao/content/2001/content\\_61136.htm](http://www.gov.cn/gongbao/content/2001/content_61136.htm) (2015/6/10 閲覧)

<sup>97</sup> 社会主義榮辱觀は、「八榮八恥」とも言われ、胡錦濤が国民に提唱した文明的な国家建設を樹立するための道德紀律の通称。人教版「品德と生活」「品德と社会」1~6 年の全教科書の表紙の裏 1 ページに記載されている。以下に日本語訳を示す。

#### ＜社会主義榮辱觀＞

祖国を熱愛するのは栄光であり、祖国に危害を加えるのは恥辱である。

人民に奉仕するのは栄光であり、人民に背くのは恥辱である。

科学を尊重するのは栄光であり、無知蒙昧なのは恥辱である。

勤勉に労働するのは栄光であり、安逸をむさぼるのは恥辱である。

団結して助け合うのは栄光であり、私利私欲に走るのは恥辱である。

誠実に信用を守るのは栄光であり、道義を忘れるのは恥辱である。

法規を遵守するのは栄光であり、法を犯し規律を乱すのは恥辱である。

刻苦奮闘するのは栄光であり、驕奢淫樂をはかる

のは恥辱である。

<sup>98</sup> 胡錦濤 (2007) pp.26-27。

<sup>99</sup> 中共中央国务院 (2010) 《国家中长期教育改革和发展规划纲要 (2010-2020 年)》人民出版社。

<sup>100</sup> 中华人民共和国教育部 (2012a) 《义务教育 品德与生活课程标准 (2011 年版)》北京师范大学出版社。

中华人民共和国教育部 (2012b) 《义务教育 品德与社会课程标准 (2011 年版)》北京师范大学出版社。

<sup>101</sup> 中华人民共和国教育部 (2015) 〈教育部办公厅关于 2015 年中小学教学用书有关事项的通知〉教基二厅 [2015]1 号。

<http://www.moe.edu.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s5972/201503/185287.html>

(2015/5/10 閲覧)。

<sup>102</sup> 習近平 (2014c) pp.95-113。

<sup>103</sup> 習近平 (2014b) pp.9-10。

<sup>104</sup> 新华网 (2013 年 12 月 23 日) 中共中央办公厅印发《关于培育和践行社会主义核心价值观的意见》

[http://news.xinhuanet.com/politics/2013-](http://news.xinhuanet.com/politics/2013-12/23/c_118674689.htm)

[12/23/c\\_118674689.htm](http://news.xinhuanet.com/politics/2013-12/23/c_118674689.htm) (2015/6/10 閲覧)。

中国共產党第十八回全国代表大会において、社会主義の中核的価値觀を積極的に育成、実践することが打ち出された。富強・民主・文明・調和は国レベルの価値基準であり、自由・平等・公正・法治は社会面の価値基準であり、愛国・勤勉・誠実・友好は公民を対象にする価値基準であるとする。

習近平 (2014b) pp.9-10。習近平は、2015 年 5 月 4 日の青年節に北京大学で行った談話「青年は社会主義の中核的価値觀を自覺的に実践すべきである」で、この 12 項目の価値基準にふれ、「中国の優れた伝統文化の遺伝子を受け継いでおり、...全人民が共に努力し、...中華民族がより自信を持ち、より自強の姿勢で、世界の諸民族の中で高くそびえ立つようにしなければならない。」と教師や学生に語りかけている。

<sup>105</sup> 中国國務院報道弁公室が中央文献研究室、中国外文局と共同で編集した書籍『習近平 国政運営を語る』(原題:《习近平谈治国理政》)は外文出版社を通じて、中国語、英語、フランス語、ロシア語、アラブ語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、日本語など多言語本が出版された。

人民網日本語版（2014 年 9 月 29 日）「『習近平氏、国家統治を語る』多言語版が出版へ」

「習氏を総書記とする党中央の国家統治の理念と執政の方略を全面的かつ正確に叙述しており、中国の発展理念、発展の道のり、内政・外交政策などに対する国際社会の認識と理解を深め、国際社会の関心に答えるという重要な意義をもつものだ。」

<http://j.people.com.cn/n/2014/0929/c94474-8789536.html> （2015/5/10 閲覧）。

<sup>106</sup> 劉曉波（2009）『天安門事件から「08 憲章」へ——中国民主化のための戦いと希望』（横澤泰夫ほか訳）藤原書店 p.220。

<sup>107</sup> Edward Vickers Selling(2009) 'Socialism with Chinese Characteristics' 'Thought and Politics' and the legitimisation of China's developmental strategy, *International Journal of Educational Development* 29, pp.523-531,

<sup>108</sup> 上藺恒太郎（2014）「平和の定義—平和責任：被害、加害責任、そして記憶の文化—」『長崎大学教育学部紀要—教育科学—』第 78 号、pp.25-26。

## <参考文献>

### 1、日本語文献（アルファベット順）

東史郎（2001）『東史郎日記』熊本出版文化会館。

東史郎さんの南京裁判を支える会編（2001）『加害と赦し—南京大虐殺と東史郎裁判』現代書館。

莫宇緋（2009）「中国と日本における愛国心教育の比較研究」<http://hdl.handle.net/10129/1842>（2015/5/10 閲覧）。

武小燕（2013）『改革開放後中国の愛国主義教育 社会の近代化と徳育の機能をめぐって』大学教育出版。

袁偉時（2006）『中国の歴史教科書問題—《氷点》事件の記録と反省』（武吉次朗訳）日本僑報社。

石原千秋（2005）『国語教科書の思想』ちくま新書。

服部龍二（2015）『外交ドキュメント 歴史認識』岩波新書。

倪冬岩（2007）「中国における道徳教育の動態」『現代社会文化研究』№38、pp.115-132。

貝塚茂樹（2012）『道徳教科書の取り扱い説明書—教科

化の必要性を考える』学術出版会。

上藺恒太郎（2014）「平和の定義—平和責任：被害、加害責任、そして記憶の文化—」『長崎大学教育学部紀要—教育科学—』第 78 号、pp.19-27。

許芳（2007）「1990 年代から中国における社会科教科書づくりとその展望—授業づくりの観点から—」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』別冊 15 号—1、pp.161-171。

江沢民（2012）『江沢民文選第二巻』（中共中央マルクス・エンゲルス・レーニン・スターリン著作翻訳編集局訳）外文出版社。

李大同（2006）『《氷点》停刊の舞台裏—問われる中国の言論の自由』（三瀧正道監訳）日本僑報社。

松岡環編著（2002）『南京戦・閉ざされた記憶を尋ねて—元兵士 102 人の証言』社会評論社。

松岡環編著（2003）『南京戦・切りさかれた受難者の魂—被害者 120 人の証言』社会評論社。

文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説総則編』東洋館出版社。

日中韓 3 国共通歴史教材委員会編（2005）『日本・中国・韓国＝共同編集 未来をひらく歴史—東アジア 3 国の近現代史』高文研。

日中韓 3 国共通歴史教材委員会編（2012）『新しい東アジアの近現代史[上] 国際関係の変動で読む 未来をひらく歴史』日本評論社。

日中韓 3 国共通歴史教材委員会編（2012）『新しい東アジアの近現代史[下] テーマで読む人と交流 未来をひらく歴史』日本評論社。

岡裕人（2012）『忘却に抵抗するドイツ—歴史教育から「記憶の文化」へ』大月書店。

リチャード・マグレガー（2011）『中国共産党』（小谷まさ代訳）草思社。

劉曉波（2009）『天安門事件から「08 憲章」へ——中国民主化のための戦いと希望』（横澤泰夫ほか訳）藤原書店。

佐藤公彦（2008）『上海版歴史教科書の「扼殺」—中国のイデオロギー的言論統制・抑圧』日本僑報社。

清水幾太郎（2013）『愛国心』ちくま学芸文庫。

スーザン L. シャーク（2008）『中国 危うい超大国』（徳川家広訳）NHK放送出版協会。

- 習近平 (2014a) 『改革の全面的深化について』 (中共中央文献研究室編) (中共中央編訳局訳) 外文出版社。
- 習近平 (2014b) 『習近平 国政運営を語る』 (日本翻訳組訳) 外文出版社。
- 習近平 (2014c) 『中華民族の偉大な復興を目指す中国の夢』 (中共中央文献研究室編) (中共中央マルクス・エンゲルス・レーニン・スターリン著作翻訳編集局訳) 外文出版社。
- 賽漢花 (2001) 「中国の初等教科「品德と社会」に見る公民性教育 (1) - 5 年生単元「私たちの民主生活」の分析を中心に—」『滋賀大学大学院教育学研究科論文集』第 14 号、pp.83-91。
- 蔡秋英 (2007) 「中国における初等教科「品德と社会」の内容構成原理—「公民意識」の育成を中心に—」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部 第 56 号、pp.75-82。
- 沈曉敏 (2005) 「中国の道德・社会科の再編成における『公民意識』『公共意識』の形成—『品德と社会』教科書 (上海) をを中心に—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第 45 巻、pp.257-266。
- ワン・ジョン (2014) 『中国の歴史認識はどう作られたのか』 (伊藤真訳) 東洋経済新報社。
- 山田美香 (2012) 「中国における道德教育と社会科の合科」『名古屋市立大学大学院人間文化研究科 人間文化研究』第 17 号、pp.99-110。
- 2、中国語文献 (中国語ピンインをアルファベット順に配列)
- 本书编写组編 (2009) 《新时期爱国主义教育读本》中共党史出版社。
- 董立河編著 (2015) 《社会主义核心价值观・关键词 爱国》中国人民大学出版社。
- 江泽民 (1996) 《中国共产党第十四届中央委员会第六次全体会议公报》。
- 教育部基础教育司组织编写 (2002) 《走进新课程—与课程实施者对话》北京师范大学出版社。
- 教育部基础教育课程教材专家工作委员会组织编写 (2012) 《义务教育品德与社会课程标准 (2011 年版解读)》高等教育出版社。
- 基础教育教学研究课题组編 (2015) 《小学品德与生活 (社会) 教学指导》高等教育出版社。
- 课程教材研究所・综合文科课程教材研究开发中心編著 (2009) 《品德与社会 六年级下册 教师教学用书》人民教育出版社。
- 上海市教育委员会 (2004) 《上海市小学品德与社会课程标准 (试行稿)》上海教育出版社。
- 檀传宝 等 (2012) 《走向德育专业化:学校德育 100 問》华东师范大学出版社。
- 中共中央国务院 (2010) 《国家中长期教育改革和发展规划纲要 (2010-2020 年)》人民出版社。
- 中共中央文献研究室編 (2014) 《十八大以来重要文献选编 (上)》中央文献出版社。
- 中华人民共和国教育部 (2002a) 《全日制义务教育 品德与生活课程标准 (实验稿)》北京师范大学出版社。
- 中华人民共和国教育部 (2002b) 《全日制义务教育 品德与社会课程标准 (实验稿)》北京师范大学出版社。
- 中华人民共和国教育部 (2012a) 《义务教育 品德与生活课程标准 (2011 年版)》北京师范大学出版社。
- 中华人民共和国教育部 (2012b) 《义务教育 品德与社会课程标准 (2011 年版)》北京师范大学出版社。
- 中华人民共和国教育部 (2012c) 《义务教育 语文课程标准 (2011 年版)》北京师范大学出版社。
- 中华人民共和国教育部 (2014) 《2014 义务教育课程标准实验教科书目录》。
- 中华人民共和国教育部 (2015) 《2015 义务教育课程标准实验教科书目录》。
- 3、英語文献 (アルファベット順)
- Edward Vickers Selling (2009) 'Socialism with Chinese Characteristics' 'Thought and Politics' and the legitimisation of China's developmental strategy, International Journal of Educational Development 29, pp.523-531,
- Kamizono, Kohtaro (2008), Reticence towards Moral Lessons in Japanese Schools: Moral education at a crossroad 『長崎大学教育学部紀要—教育科学—』第 72 号、pp.1-12。



## &lt;使用した中国の道徳教科書&gt;

全て日本語で表記し、理解のために（）内に、出版社の所在地を示す。

＊人民教育出版社版（北京市）

課程教材研究所・総合文科課程教材研究開発中心編著

『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2007年（第2版）	品德と生活	1 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2007年（第2版）	品德と生活	1 年級
『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2007年（第2版）	品德と生活	2 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2007年（第2版）	品德と生活	2 年級
『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2009年（第3版）	品德と社会	3 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2003年（第2版）	品德と社会	3 年級
『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2010年（第3版）	品德と社会	4 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2007年（第2版）	品德と社会	4 年級
『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2010年（第4版）	品德と社会	5 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2009年（第4版）	品德と社会	5 年級
『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2007年（第2版）	品德と社会	6 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2009年（第3版）	品德と社会	6 年級

＊北京師範大学出版社版（北京市）

北京師範大学出版社 「品德と生活」李季涓主編、  
「品德と社会」高峽主編

『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2006年（第3版）	品德と生活	1 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2003年（第1版）	品德と生活	1 年級
『義務教育課程標準実験教科書	品德と生活	2 年級

上冊』2006年（第2版）

『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2003年（第1版）	品德と生活	2 年級
『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2002年（第1版）	品德と社会	3 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2003年（第1版）	品德と社会	3 年級
『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2003年（第1版）	品德と社会	4 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2008年（第2版）	品德と社会	4 年級
『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2004年（第2版）	品德と社会	5 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2004年（第1版）	品德と社会	5 年級
『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2005年（第1版）	品德と社会	6 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2011年（第2版）	品德と社会	6 年級

＊教育科学出版社版（北京市）

教育科学出版社 戚万学・傅国亮・劉建效 主編

『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2002年（第1版）	品德と生活	1 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2003年（第1版）	品德と生活	1 年級
『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2003年（第1版）	品德と生活	2 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2004年（第1版）	品德と生活	2 年級
『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2002年（第1版）	品德と社会	3 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2003年（第1版）	品德と社会	3 年級
『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2003年（第1版）	品德と社会	4 年級
『義務教育課程標準実験教科書 下冊』2004年（第1版）	品德と社会	4 年級
『義務教育課程標準実験教科書 上冊』2004年（第1版）	品德と社会	5 年級

『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 5 年級  
下冊』2004 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 6 年級  
上冊』2005 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 6 年級  
下冊』2005 年（第 1 版）

＊江蘇教育出版社版（江蘇省南京市）

江蘇教育出版社・中国地图出版社 魯潔主編

『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 1 年級  
上冊』2002 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 1 年級  
下冊』2002 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 2 年級  
上冊』2003 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 2 年級  
下冊』2003 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 3 年級  
上冊』2002 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 3 年級  
下冊』2002 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 4 年級  
上冊』2003 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 4 年級  
下冊』2010 年（第 3 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 5 年級  
上冊』2009 年（第 2 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 5 年級  
下冊』2010 年（第 2 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 6 年級  
上冊』2009 年（第 2 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 6 年級  
下冊』2005 年（第 1 版）

＊広東教育出版社版（広東省広州市）

広東省教学教材研究室・広東省出版集团課程教材研  
究中心編著

『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 1 年級  
上冊』2003 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 1 年級

下冊』2003 年（第 1 版）

『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 2 年級  
上冊』2004 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 2 年級  
下冊』2004 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 3 年級  
上冊』2003 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 3 年級  
下冊』2003 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 4 年級  
上冊』2004 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 4 年級  
下冊』2004 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 5 年級  
上冊』2005 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 5 年級  
下冊』2006 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 6 年級  
上冊』2006 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 6 年級  
下冊』2007 年（第 1 版）

＊遼海出版社版（遼寧省瀋陽市）

遼海出版社 鐘啓泉主編 沈曉敏副主編

『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 第 1 冊』  
2005 年（第 2 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 第 2 冊』  
2002 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 第 3 冊』  
2003 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 第 4 冊』  
2003 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 3 年級  
上』2003 年（第 2 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 3 年級  
下』2003 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 4 年級  
上』2005 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 4 年級  
下』2004 年（第 1 版）

『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 5 年級  
上』2005 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 5 年級  
下』2004 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 6 年級  
上』2005 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 6 年級  
下』2004 年（第 1 版）

＊山東美術出版社版（山東省済南市）

山東美術出版社 李培林・韓緒金主編

『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 1 年級  
上冊』2004 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 1 年級  
下冊』2004 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 2 年級  
上冊』2005 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 2 年級  
下冊』2004 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 3 年級  
上冊』2005 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 3 年級  
下冊』2004 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 4 年級  
上冊』2004 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 4 年級  
下冊』2004 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 5 年級  
上冊』2005 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 5 年級  
下冊』2005 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 6 年級  
上冊』2006 年（第 1 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 6 年級  
下冊』2006 年（第 1 版）

＊首都師範大学出版社版（北京市）

北京教育科学研究院・首都師範大学出版社合編

『北京市義務教育課程改革実験教材 品德と生活 1 年  
級 上冊』2010 年（第 2 版）

『北京市義務教育課程改革実験教材 品德と生活 1 年  
級 下冊』2004 年（第 1 版）  
『北京市義務教育課程改革実験教材 品德と生活 2 年  
級 上冊』2010 年（第 2 版）  
『北京市義務教育課程改革実験教材 品德と生活 2 年  
級 下冊』2005 年（第 1 版）  
『北京市義務教育課程改革実験教材 品德と社会 3 年  
級 上冊』2010 年（第 2 版）  
『北京市義務教育課程改革実験教材 品德と社会 3 年  
級 下冊』2006 年（第 1 版）  
『北京市義務教育課程改革実験教材 品德と社会 4 年  
級 上冊』2010 年（第 2 版）  
『北京市義務教育課程改革実験教材 品德と社会 4 年  
級 下冊』2010 年（第 2 版）  
『北京市義務教育課程改革実験教材 品德と社会 5 年  
級 上冊』2010 年（第 2 版）  
『北京市義務教育課程改革実験教材 品德と社会 5 年  
級 下冊』2008 年（第 1 版）  
『北京市義務教育課程改革実験教材 品德と社会 6 年  
級 上冊』2010 年（第 2 版）  
『北京市義務教育課程改革実験教材 品德と社会 6 年  
級 下冊』2009 年（第 1 版）

＊山東教育出版社版（山東省済南市）

山東教育出版社

『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 1 年級  
上冊』2012 年（第 2 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 1 年級  
下冊』2013 年（第 2 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 2 年級  
上冊』2012 年（第 2 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と生活 2 年級  
下冊』2013 年（第 2 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 3 年級  
上冊』2011 年（第 2 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 3 年級  
下冊』2013 年（第 2 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 4 年級  
上冊』2011 年（第 2 版）  
『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 4 年級



下冊』2013年（第3版）

『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 5年級

上冊』2012年（第2版）

『義務教育課程標準実験教科書 品德と社会 5年級

下冊』2013年（第2版）

＊上海科技教育出版社版（上海市）

上海市中小学（幼稚園）課程改革委員会

鐘啓泉主編 沈曉敏副主編

『九年義務教育課本 品德と社会 1年級第1学期（試用本）』2014年（第1版）

『九年義務教育課本 品德と社会 1年級第2学期（試用本）』2005年（第2版）

『九年義務教育課本 品德と社会 2年級第1学期（試用本）』2005年（第2版）

『九年義務教育課本 品德と社会 2年級第2学期（試用本）』2005年（第2版）

『九年義務教育課本 品德と社会 3年級第1学期（試用本）』2004年（第2版）

『九年義務教育課本 品德と社会 3年級第2学期（試用本）』2005年（第2版）

『九年義務教育課本 品德と社会 4年級第1学期（試用本）』2005年（第1版）

『九年義務教育課本 品德と社会 4年級第2学期（試用本）』2008年（第2版）

『九年義務教育課本 品德と社会 5年級第1学期（試用本）』2008年（第2版）

『九年義務教育課本 品德と社会 5年級第2学期（試用本）』2008年（第2版）

＊各教科書の写真を以下に掲載する（筆者撮影）。

人民教育出版社版（人教版）[写真 1]、北京師範大学出版社版（北師版）[写真 2]、教育科学出版社版（教科版）[写真 3]、江蘇教育出版社版（江教版）[写真 4]、広東教育出版社版（広教版）[写真 5]、遼海出版社版（遼海版）[写真 6]、山東美術出版社版（山美版）[写真 7]、山東教育出版社版（山教版）[写真 8]、上海科技教育出版社版（上海：科技版）[写真 9]、首都師範大学出版社版（北京：首師版）[写真 10]



[写真 1] 人教版

[写真 2] 北師版

[写真 3] 教科版

[写真 4] 江教版

[写真 5] 広教版



[写真 6] 遼海版

[写真 7] 山美版

[写真 8] 山教版

[写真 9] 上海：科技版

[写真 10] 北京：首師版